頭書增補訓蒙圖彙巻之一

天文

此部ハ日月星辰雨露霜雪乃まぐひあるを日月星辰ハ天の文章なるべし易曰仰見於天文

兩儀

天地開闢のゝち陰陽ありて清らかなるものは天となりおもくにごりて地となる天を陽といひ地を陰と陰陽を儀といふなり

○七政ハ日月と五星と合して七曜ともいふなり

日月五星天の政をなすなり

木星を歲星といひ火星を熒惑といひ土星を鎮星と云金星を太白といひ水星を辰星

とゝ人木火土金水の五行乃星めぐりて陰陽とかゝ歳とゝを此五星と五緯とゝ人

○太極は天地はじまりを陰陽とゞゝ人渾沌なる事一鷄子のごゝ人渾淳て形とふゝ人鴻毛の未判とゝ人其清陽かるものを薄靡て天とゝ人重濁るものを淹滯て地とゝ人ふたゝび天地開闢して其間に万物生ず開闢以前を太極とゝ人天地陰陽とゝ人ゝ人ゝ人ゝ人

○國常立尊は天地既にして其中に物あらはれ葦牙のごゝ人則化して神とゝ人

大極

倭國

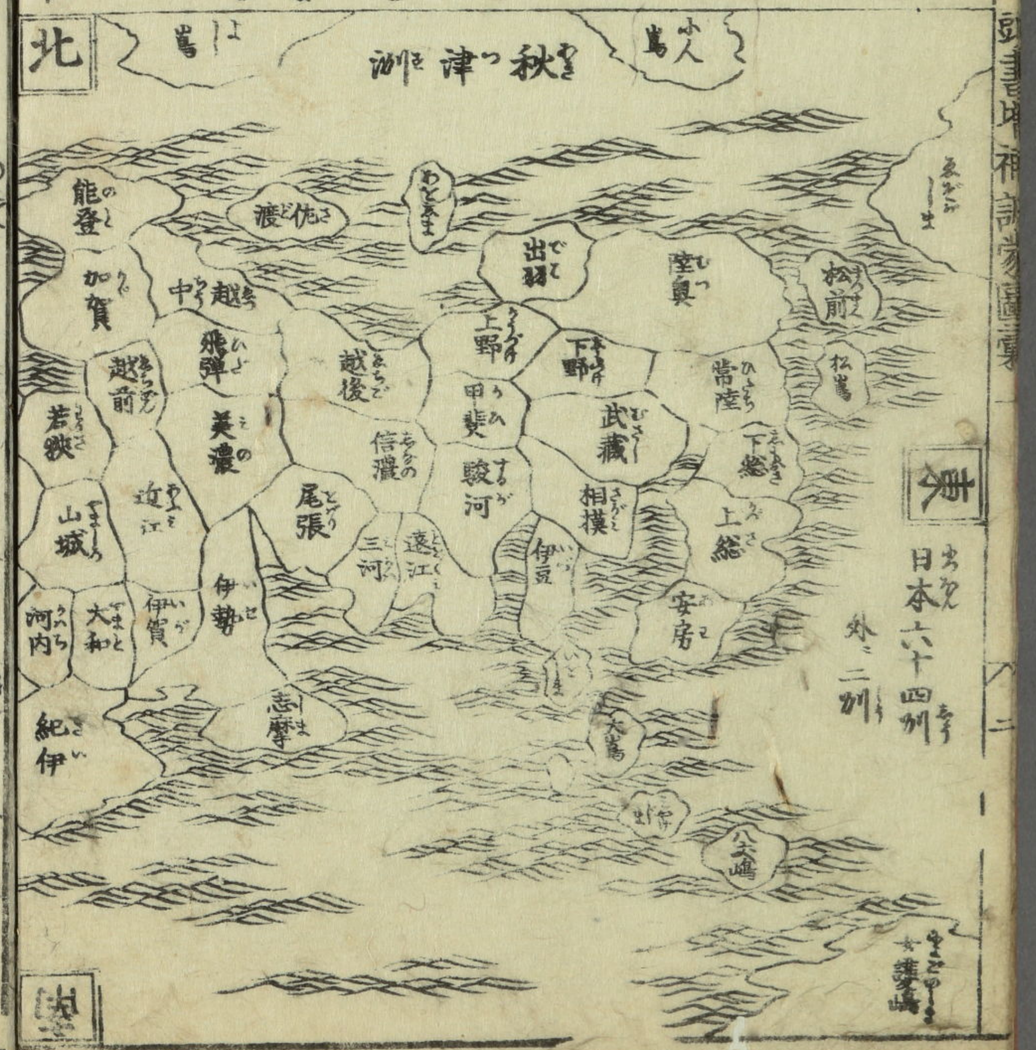
國常立

唐土

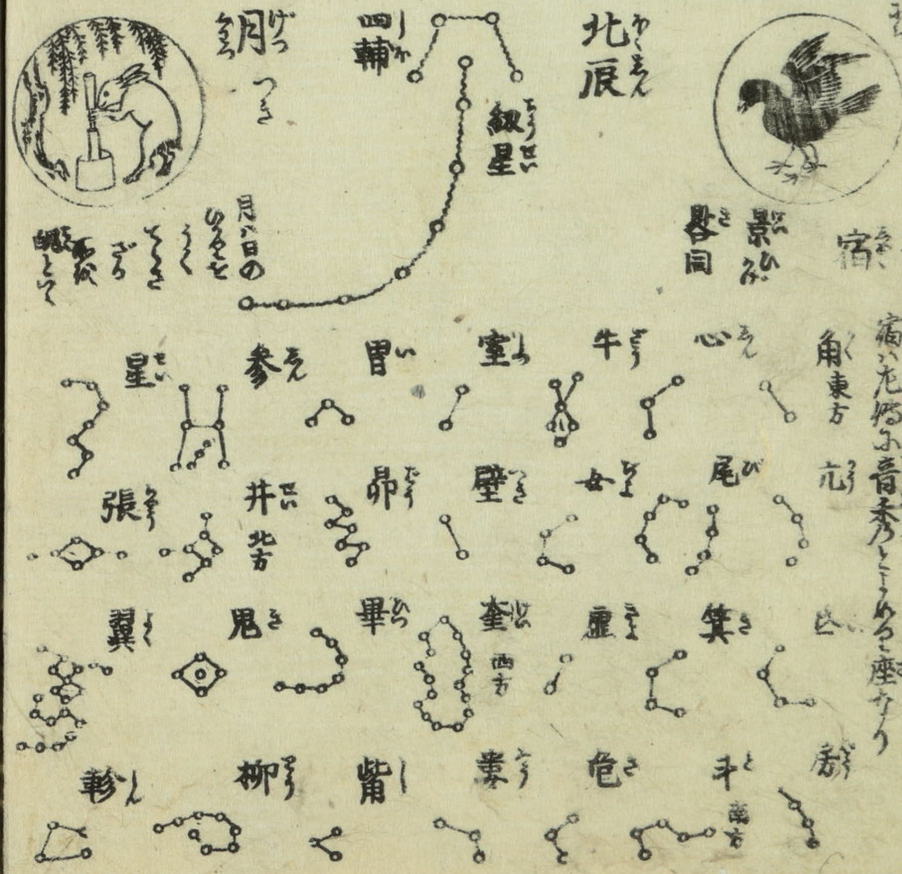
國常立尊とゝ人の始め日本を芦原國とゝ人此義かるを是より天神七代地神五代ありひつきて人の代をなす唐にては天地開闢して盤古氏とゝ人是人乃始めとゝ人三皇五帝三王とつゞきて人の代とゝ人

○倭は日本を倭と号る事天地開闢の後は地は皆ふゝ人て平きゝ人の代とゝ人ゝ人ゝ人

○秋津洲とゝ人い
人皇のゝゝゆうと
神武皇帝とゝ
奉る即位三十一年
四月帝諸國ふ幸
ゆゝ日本乃地
蜻蛉洲ふ似ゝると
ゝゝ秋津洲と
名つゝ人
○そゝ日本國い唐
中華の地ゝう東ゝ
わゝる山人ふ日東と
も扶桑國ともゝ人
ゝ須彌山の南ゝわ
ゝる山ふ南贍部
洲ともゝ人用明天皇
のゝゝ五畿七道ふ
さゝ分ゝ人丈武天皇
の御代ふ六十六ケ國
にゝゝて諸國ゝ守
護とゝ人東武ふ將
軍わゝて諸國と守
護ゝゝめ西京中國
天子の都とゝ人
ゝひゝ田地の數九
十四万七千八百一町
歩高貳千貳百八
万五千四百八十貳
石ゝゝと

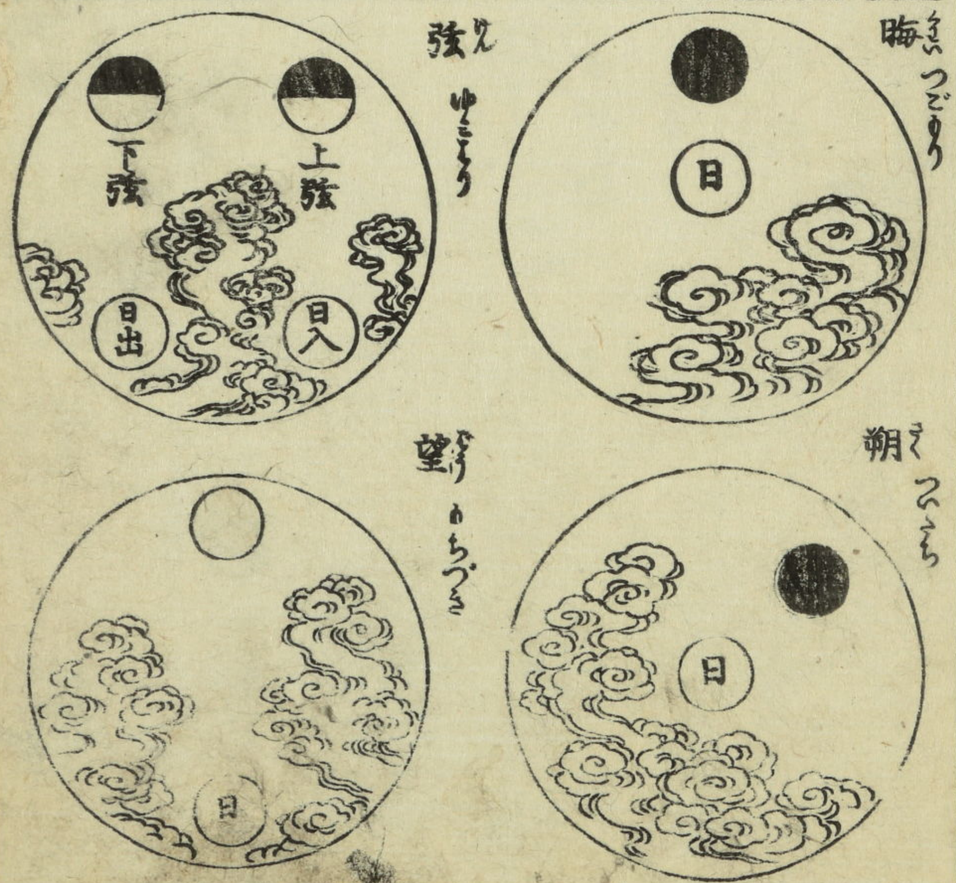


○日は陽の精なり空虚にして
ひさごろぶにとろて鳥とりて日
の歌とを陽鳥なまいかりこ三足と
とりて陽数のこころなり
○月は陰の精なり空虚にして
ひさごうぶにとろて兎とりて月
の歌とを兎は陰の獣なまいかり
白兎陰の色なり
○北辰は北極にして天の枢なり
二周天のめぐる事 此北辰と枢と
なりてめぐるなり北に位して
諸の星をしたがふ北辰の座ふ
七星あり四星なり
○列宿北星天の東西南北に位
して四方各七星づつなり合て二十
八宿なり是を三十日にとりて
毎日にあてはめるなり



列宿とよむ二十八星列座しつらなる也
角は東方亢氐房心尾箕斗牛女虛危室壁奎婁胃昴畢觜柳星張翼軫

○晦毎月大なるは三十日小なるは二十九日と晦とは月地下に
なりて光なしとて晦の字
とりこもりなり昏晦暗晦
のこころなり
○朔は蘇なるとなり月
は十五日より晦日まで日々に
欠て朔日より日々に義ふて朔とは
明なり
○弦は二十五日と上弦とは下弦
五日ごと下弦とは上弦は西の方
下弦は東の方なり上弦は七日
八日九日下弦は廿二日廿三日廿四日
にわたる月の光なきなり
○望は十五日の事なり十五日は
日月東西ふたひ望むゆへ望
といふなり月ともいふなり



月に対して月の光地の方にあたて天にあり故に満月なり

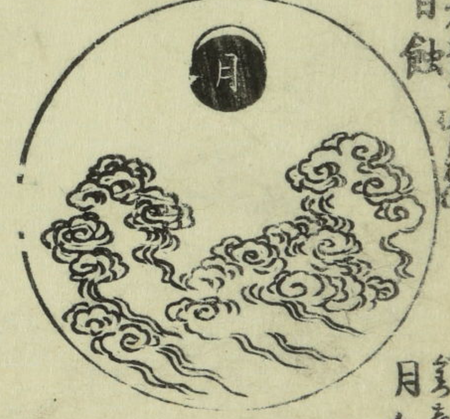
○日蝕は日月天にあつまて日は上なり月は下なり朔日は日月の會なり日月上下にあつて道と同じて會するとは地に居るとなり日は月のうへにあるなり是を日蝕といふなり

○月蝕は月いまだ光なし日の光紙なりて明なるものなり日月道と同じておむく地は月にあたるなり人ふの光地に遮る月蝕を

○星は陽精なり陽精日なり日つねに星なる故に日生とりたく星とよむ

○北斗は七星なり二三四魁と五六七柄と称す

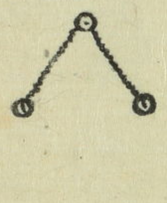
日蝕



月蝕

星

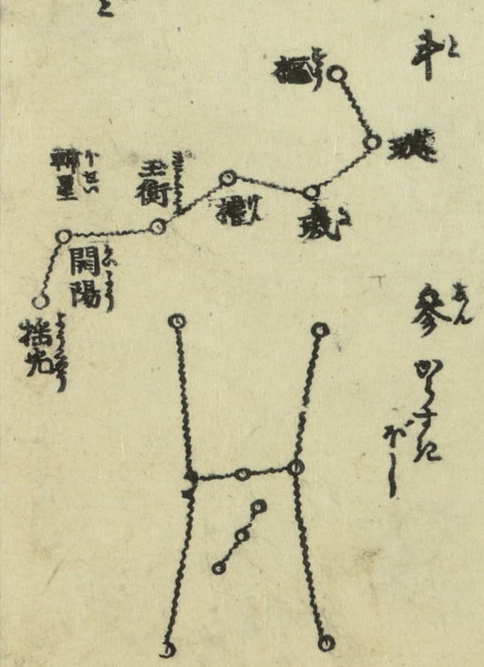
日月星と言



かしのひろと言

いふ流星なり

よりをいふ



破軍星なり輔星いとかし

○參星は西方七宿の一なり俗に是をかしらぼしといふ似なり

星の列座なり

○昴星は西方の一宿なり旄頭星ともいふ俗ふとぼる星といふ是なり星の列座同せまく

○牽牛は星の名なるべなり

かしらぼしともいふ又河鼓星ともいふ七月七日織女牽牛に嫁を

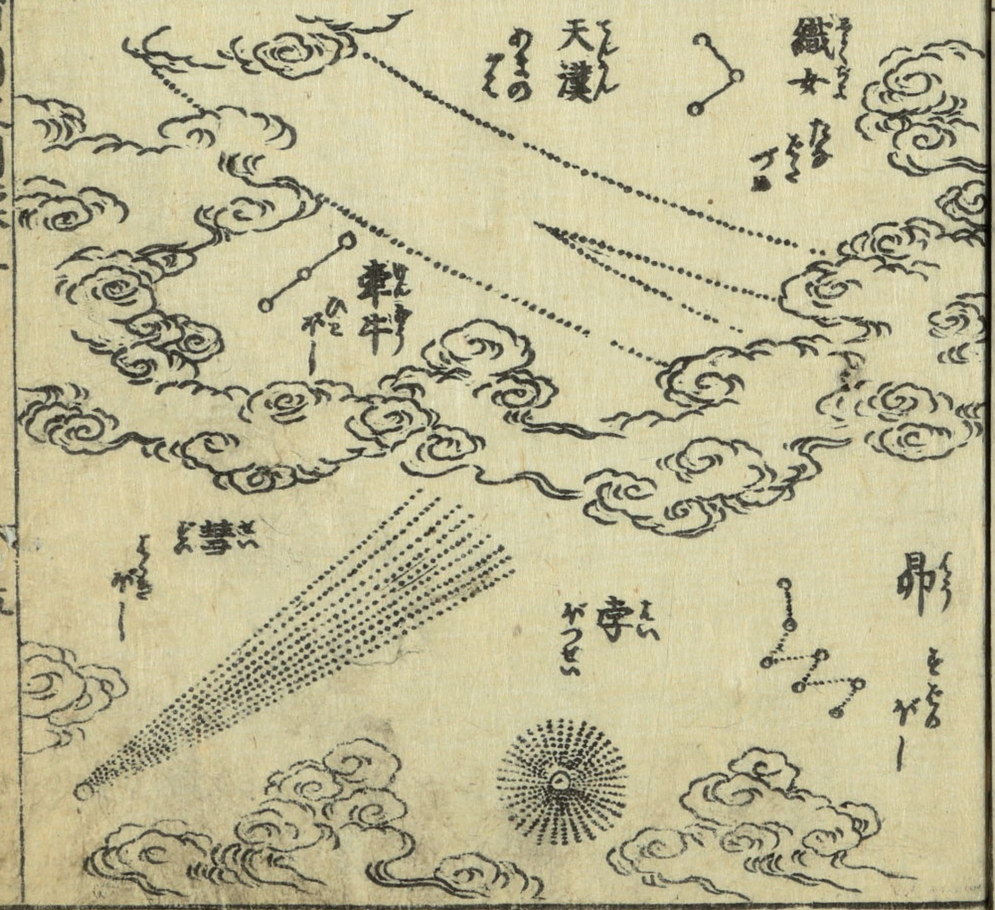
○桂陽の武丁といふ仙人なり

ようの七夕といふ事始まり

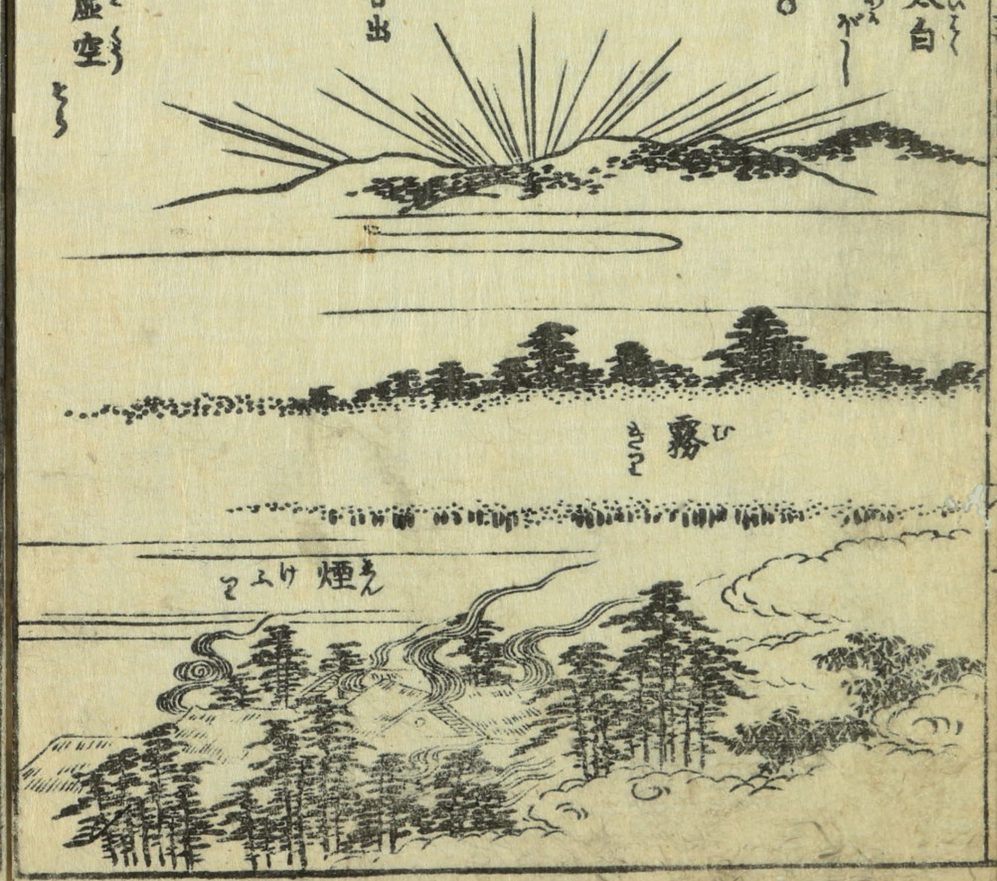
○織女は星の名なるべなり

七月七夕に菓子を庭上にとる人五色の糸に掛て祈ることをいふ

ふ三年の間ふ必ずなり是を是と乞



巧奠ともセタ祭ともいへり
○天漢は天河ともいひ銀河ともいひ七夕
小島鵲橋とそのべ橋と此河を渡
牽牛織女の二星わかれをしをり
○孛星は妖星なり此星出るとき
は書てのぞいて新に改まり災をう
かゝるの瑞あり俗ふ是を御光星と云
○彗星は妖星なり色青は王侯死
赤は強國をる白は兵乱をる天下
に災あり○わゝいく星なり
○太白星は金星なりわるがしこ
く俗にあろさの明星といひ日にさ
きだちて出るなり啓明ともいへ
○虛空はそらともいひどうとも
いひ大虛太空ともいへり天は
圓にして空をなして物なくうち
なりうろく虛空なりけり



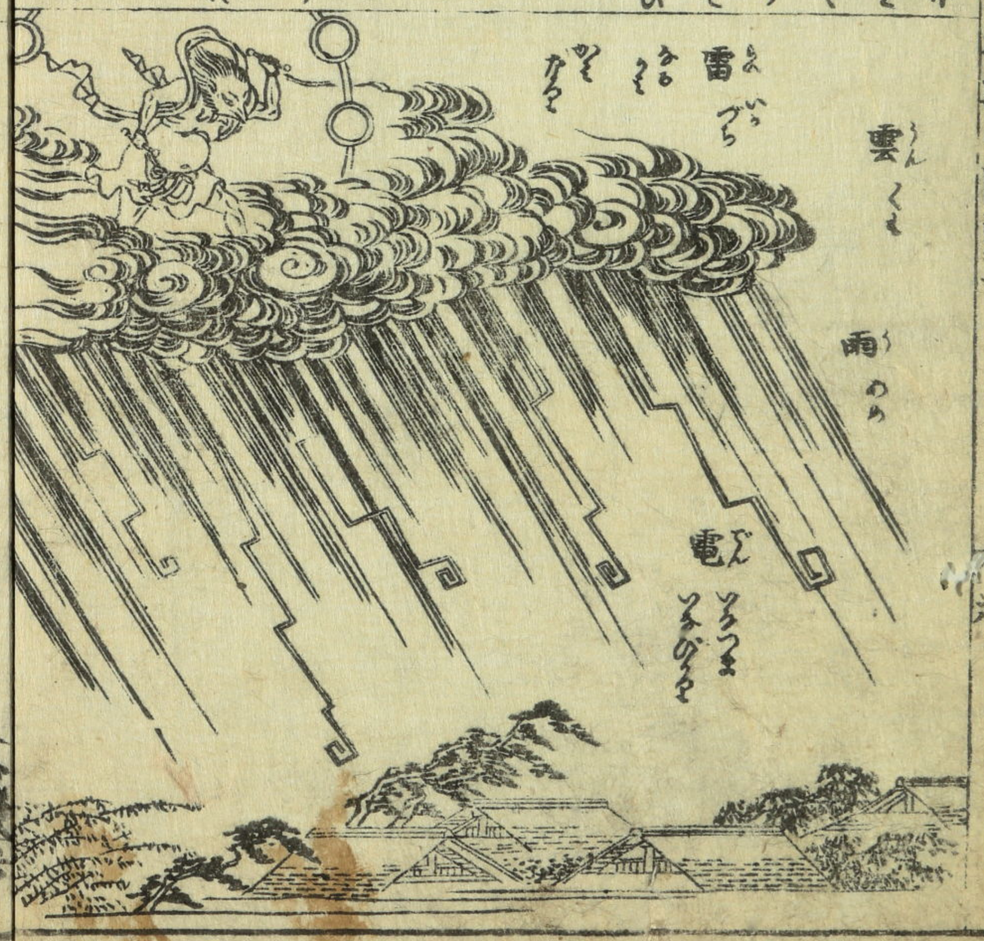
○霧は陰陽のみだれをり生ぜ
地氣のくだりて天氣應ぜざるに
霧といへり天氣くだりて地氣應せ
ざるに霧といへり風吹て土をうち
をこすを霾といへり
○煙は火の作る氣なり烟同
○氷とは煙なり
○長庚は金星なり日にあたる
ては是を長庚星といへり俗に是
をよひの明星といへり
○風は大塊の噫氣なり陽の氣
にして散をして陰の用をなる故に
風大いに土をくつがへす旋風颪
風はつよかぜ
○露は夜氣露なり陰の液
白虎通に露は霜の始なりとも
そもそも露ともいへり

○雲は山川の氣より地氣のぼりて雲となり天氣くだりて雨となる雲は陰の魄なり外陽の用なり水の雨濕の氣なり

○雨は水蒸て雲となりくだりて雨となるひとしきり暴雨といひ久しく霖雨といひ時雨を潤といふ

○雷は陰陽わひ激する声なり王充論衡といふ書に雷の形は人のかたちにして黑々として連鼓を背負ふ鞭をもつくうちて声をなすといふ

○電は二月に有この月陽氣新さんすれば陰氣とうとの激をるいうと電といふ俗にいなびかりといふ雷神と電母とす



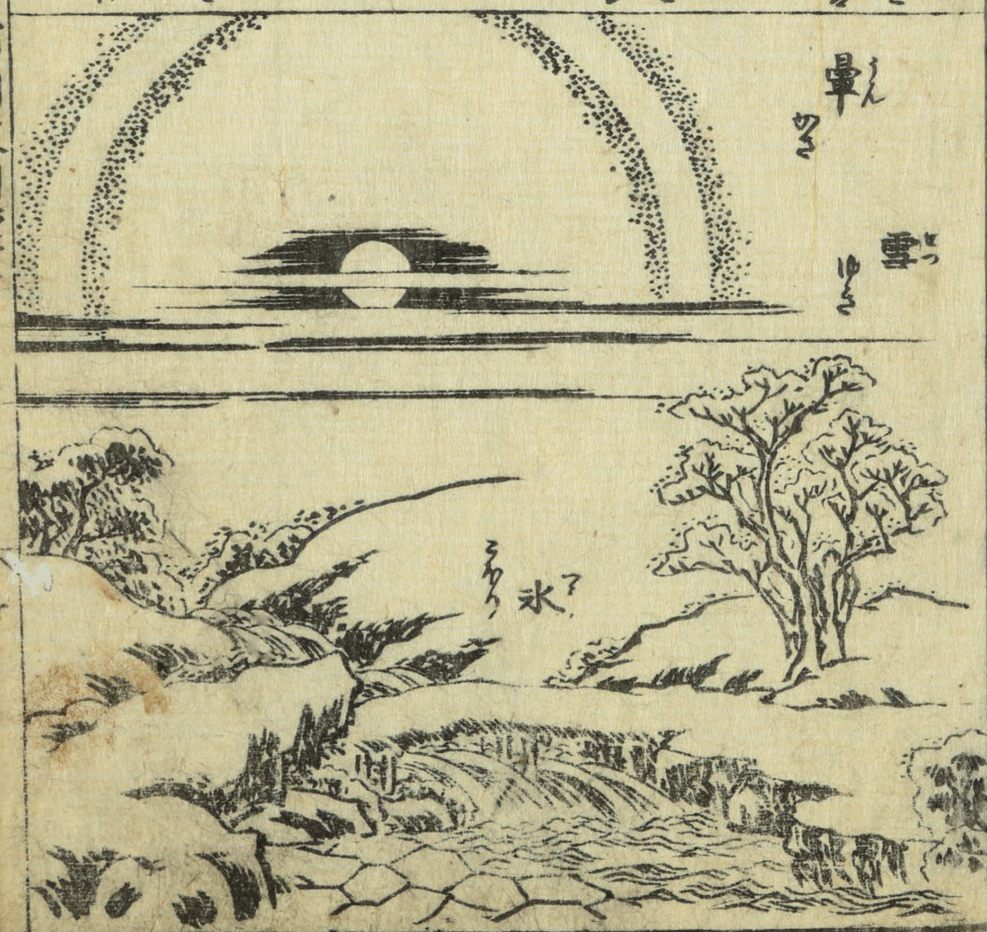
○暈は日月のかさなりの氣なり

○日暈は日暈のごとくいひ月暈のごとくいひ月暈のごとくいふ雨ふるといひ三日のうちふ雨ふるといひ

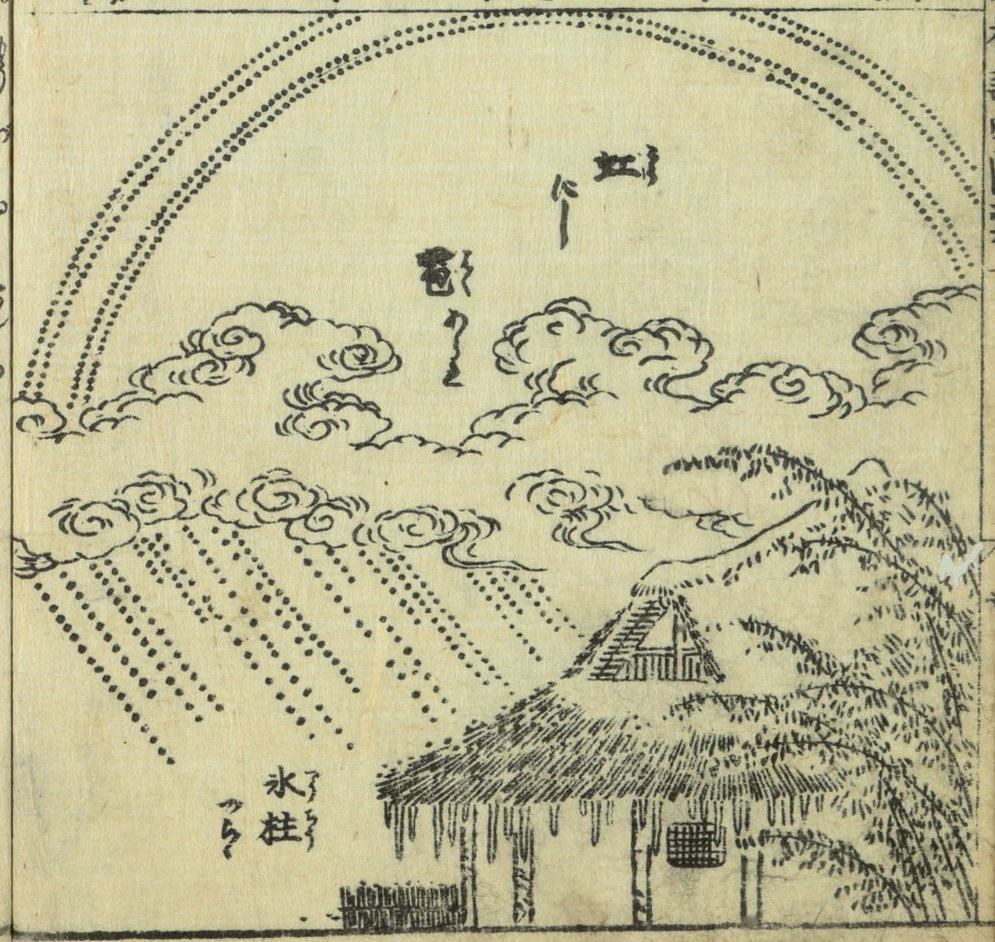
○雪は雨ありて雪となる天地の積陰あつまるとき雨となりさしひさしくこれは雪となる

花とはこれ雪のひ圓なるを雹といふ又銀花とも六出花とも銀屑ともいふ

○氷は陰氣のあつまるところ凝ぢかたくなりて氷となる氷と書はわかつ氷と書べし氷つめたくして凌といふ氷さんなるは凍といふ氷かたくて漸といふ氷とは泮といふ氷室はひむろなり



○虹は日雨と交て質となるを也
日のひかり雨にうるふ〳〵虹
あらる朝は西にあり暮には
東にあり色鮮なるを雄とし
闇と雌とす俗ふ蛇のいきとも
蝃蝀霓同とふにとあり
○雹は雪こおりて圓なるを
電とも寒気つよくして雪と
なるそ輕〳〵寒気すさまして
雪かしてとのやをしは雹とする
瓊瑤玉粒碎玉銀米明珠
同〳〵雪雨にまじりふるを霰
とも云
○雪は氷寒にひとしかりて軒
のたるきとなりて氷柱とする
氷筋氷條とも書べし又氷筍
とも云



頭書増補訓蒙圖彙 巻之二

地理

此部ハ山川田園林丘村市のきくひのる地乃條理なり易云俯察於地理

○山は高大みて石あるを
いふ廣雅云山は産なり
万物を産するゆへ説文山
は宣なり
○峯は山の端なり山大み
て高き峯をいふ
たりをとをいふ
かりを唐にくい香爐峯日
本にそは富士峯なり
○巔は高山のいただき絶
頂なり詩經に采苓采苓
首陽之巔とそ山巔とも又

高巔ともいふ

○坂は坡坂なり山中の高くけはしき所なりふ坂と嶝といふ磴同じ

○嶽はけはしき高山なり山城如意嶽近江の比良の嶽なりなり

○谷は兩山の中を流水なり溪谿同じ水谿しきりと谷といふ山の間ふ水あり谿澗といふ

○丘は土の高き所なり四方たかくして中央ひくきを丘といふ

とりあり阜同孤丘をもいふ丘と称しを

○盤は大石なり盤石ともいふ嶽ふ大盤石をいふ重巖

○巖はいはほ・なりさびを石のいはほなりてとかりとり石窟を巖といふ石のもとをあらはしたるをいふ

磐經は維石巖石とも

岩同

○崖は山邊なり山の一片ふそばだちのぼるを崖といふ

同じく懸崖ともいふけびし

補俗ふがけといふなり

○瀑は瀧とも書なりふだをおつるを白くして布を瀑ふ如くなりふつて瀑布とも

日本にも布引のたきといふ

なるをもつてふ盧山を名

ちる所を瀑泉飛泉

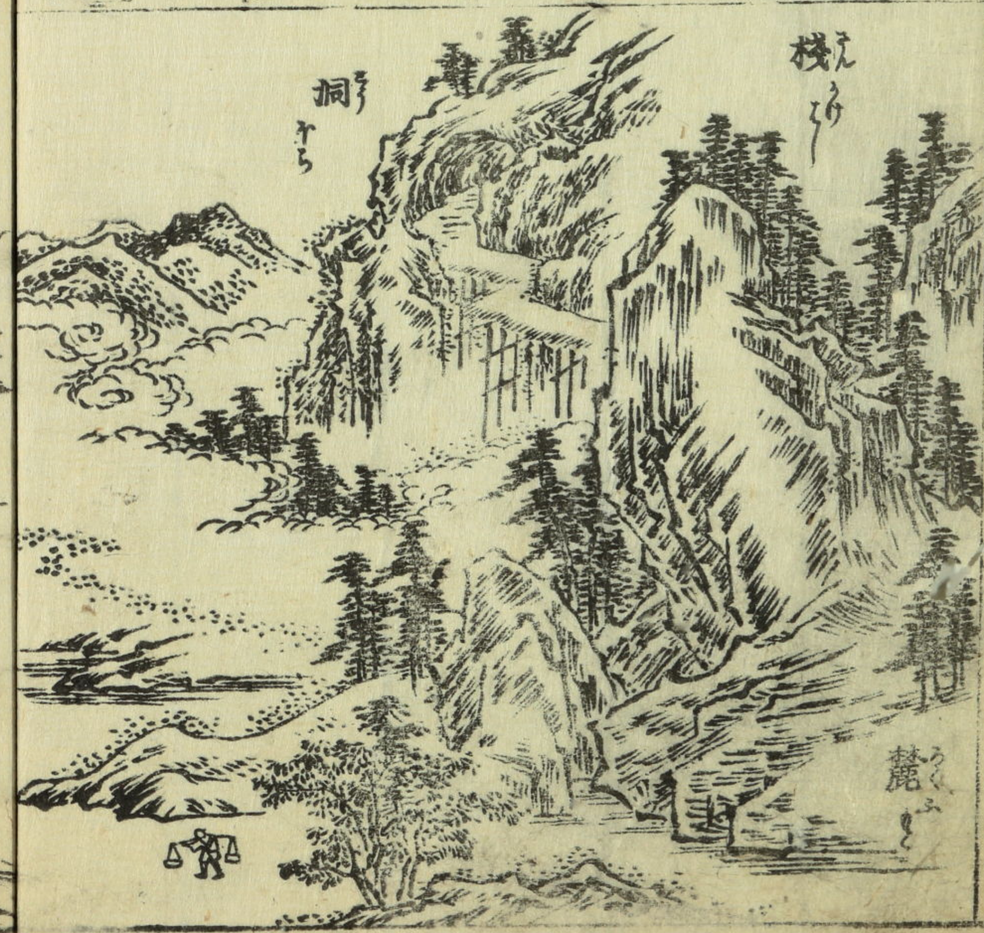
とも云ふ

○桟は棚なり閣なり本は図
なるべく道とあるは桟道なり図
道しるべ山けんとの山坂補乃
きまて通るべきなり物とうけて
道とし〜ひんとをるとい

○洞は深通とるを洞といへり
あるあり〜道と通るあり〜
仙洞は仙人のすむ洞なり嶋同
山と岩穴ありて納こ似るを
岫といへるなり

○麓は山足なり林山ふもと
と麓といふ麓は鹿のあるところ
なるゆへ字鹿に从なり鹿は
このんで林ふもとあるなり

○林は平地にて叢木あるを林
といふ野外に林を叢林松林



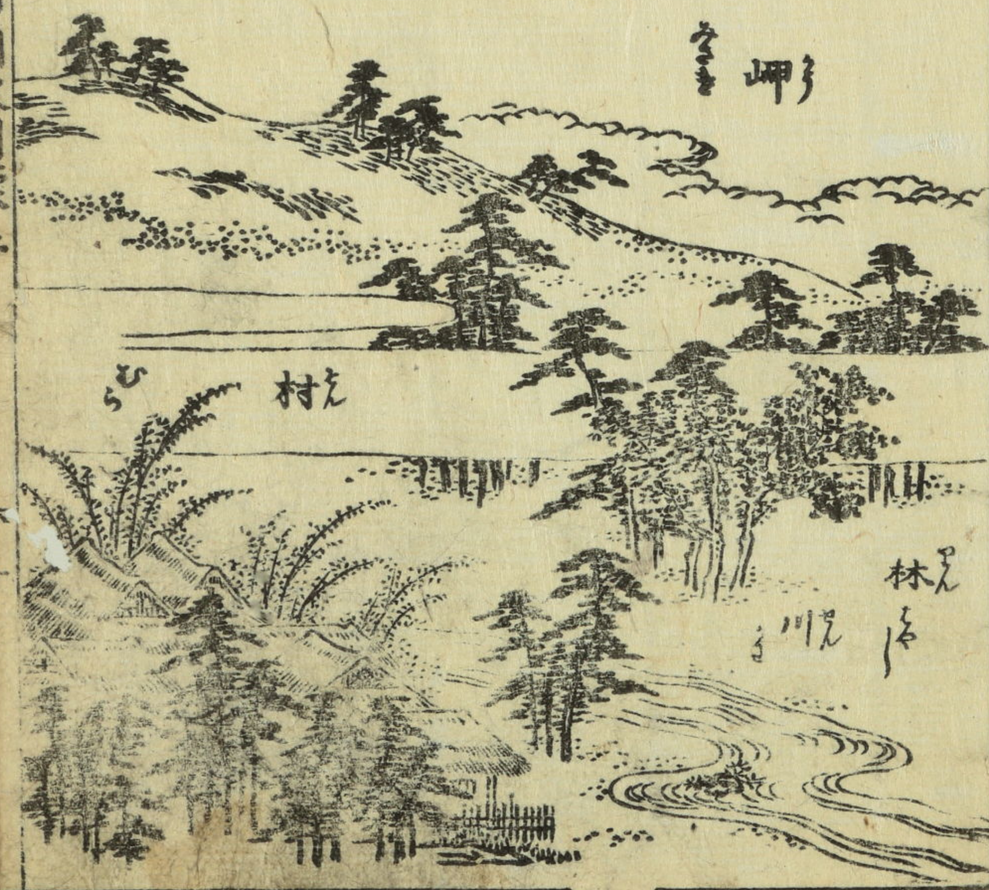
林なるゆへ木のあつまるを林
なり林とは草のあつまるを林
なと薄といふ薄なるゆへ叢同

○岬は山乃つきつなり海
なるゆへつきなるを岬といへり
越前は金岬なるゆへ

○村は人のあつまりあるを
村落といふ本は邨につくる字
通は経史に村の字なり邨は
邑ふ从ひ屯は从別は村ふつく
るは非なり今通じ用る

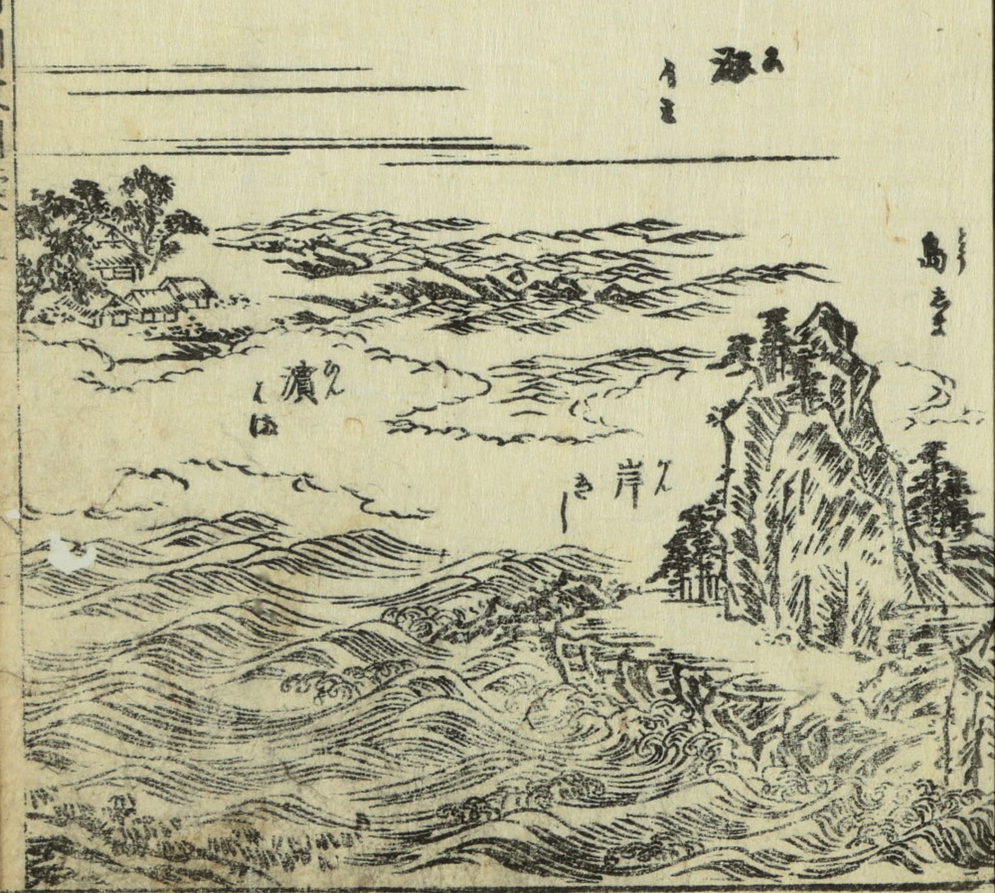
邑同〜

○川は穿なり地を穿てなり
その形をもつて川とかくべし
河とも書なり補大なるを大
河といひ小なるを小川といへ
なり補江はえなり



○洲い水中の居つゝ所多り人鳥などのあつまり息所也
小洲と諸こゝかゝゝ多り水
潮石あり此積こゝかゝゝ多り
水沙上になりゝと瀬こゝかゝゝ
同磯いそ多り
○波い風水こゝろて紋こゝを
波こゝかゝゝ水波い水紋なる浪瀾
こゝふ同一大波と澪こゝかゝゝ
連いさゝ波多りゝ澪と潮頭こ
ゝかゝゝ多り
○渦い水めぐる多り水めぐる
把のまゝなりこゝかゝゝ泡
沫いあり
○島い海中に山ありこゝを
を島こゝかゝゝ鳴嶋與多りゝ
同ト蓬萊方丈瀛洲と海

中れ三島こゝかゝゝ
○海い晦なる荒遠にして實
昧多る意多りゝ海い穢こゝ
て其水黑して晦のごゝしゝ
こゝ湖いこゝかゝゝ新いし
ゝ多り
○岸い水涯の高き所こゝかゝゝ
低こゝ口のさしたる浪こゝ
こゝかゝゝ岸の峰杜こゝ多りゝ
○濱い水際多り涯いこゝ浦い
こゝ多りゝ同一水際の平
沙を汀こゝかゝゝ多り
海濱ひろこゝと渺こゝかゝゝ多り
河濱水濱海濱こゝかゝゝ海也
○田い土と耕の名口い田の四方
こゝかゝゝ多り中に十のまい田の
阡陌こゝかゝゝ多り



畔 畷 畦

○畔は田の界なり畦畷同じ
あぜ なり畦は畷の國ふい耕すのを畔と讓と
いふなり

○溝は田間の水なり溝は構なり
たてゝふせぐなり

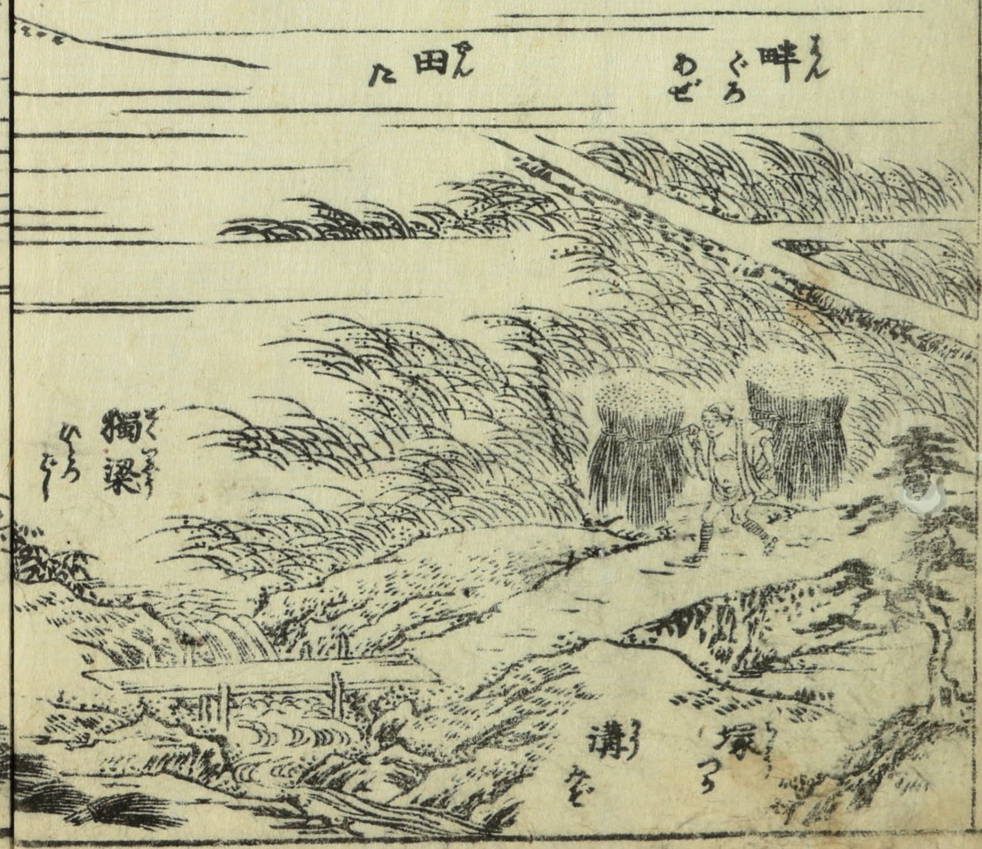
渠同

○獨梁は獨木梁なり
又孤橋なり九木なり一本
橋なり

○塚は亞なり墓なり土を
封ずる処塚なり高さを墳
高さを墳といふなり

塚のうへなり

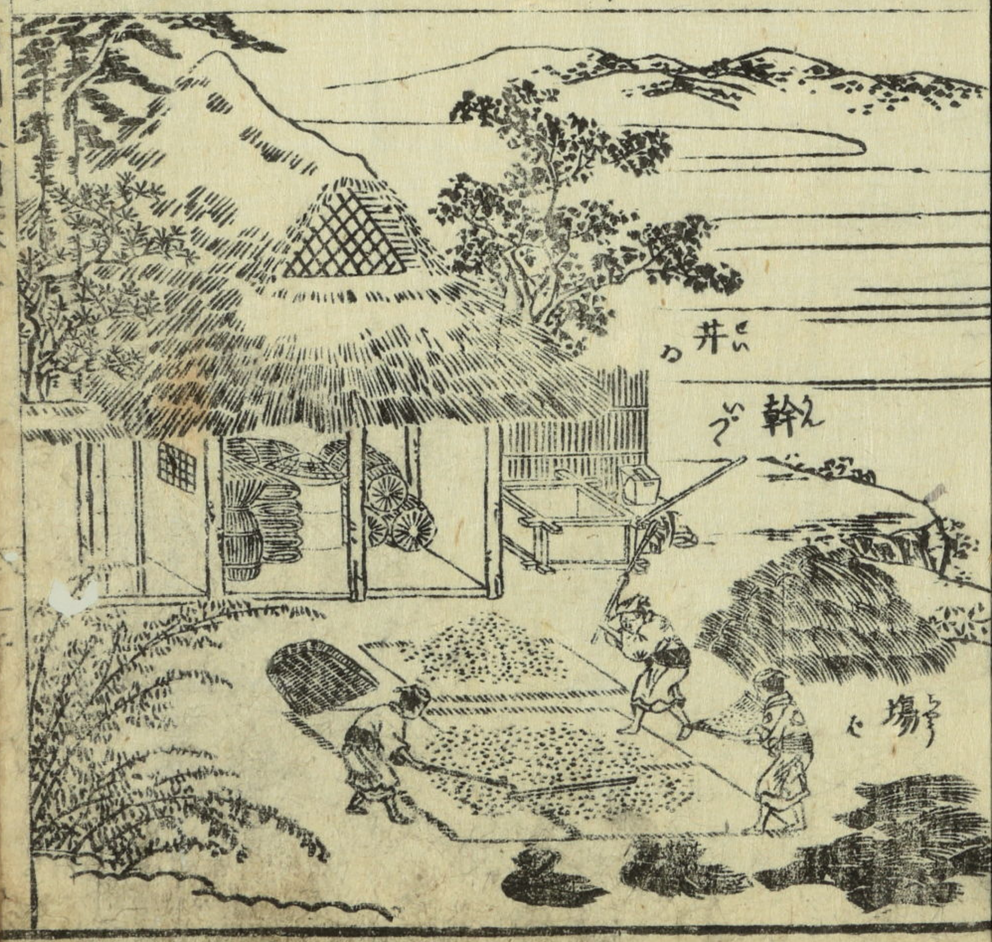
○場は五穀をかゝる圃なり
まきなり



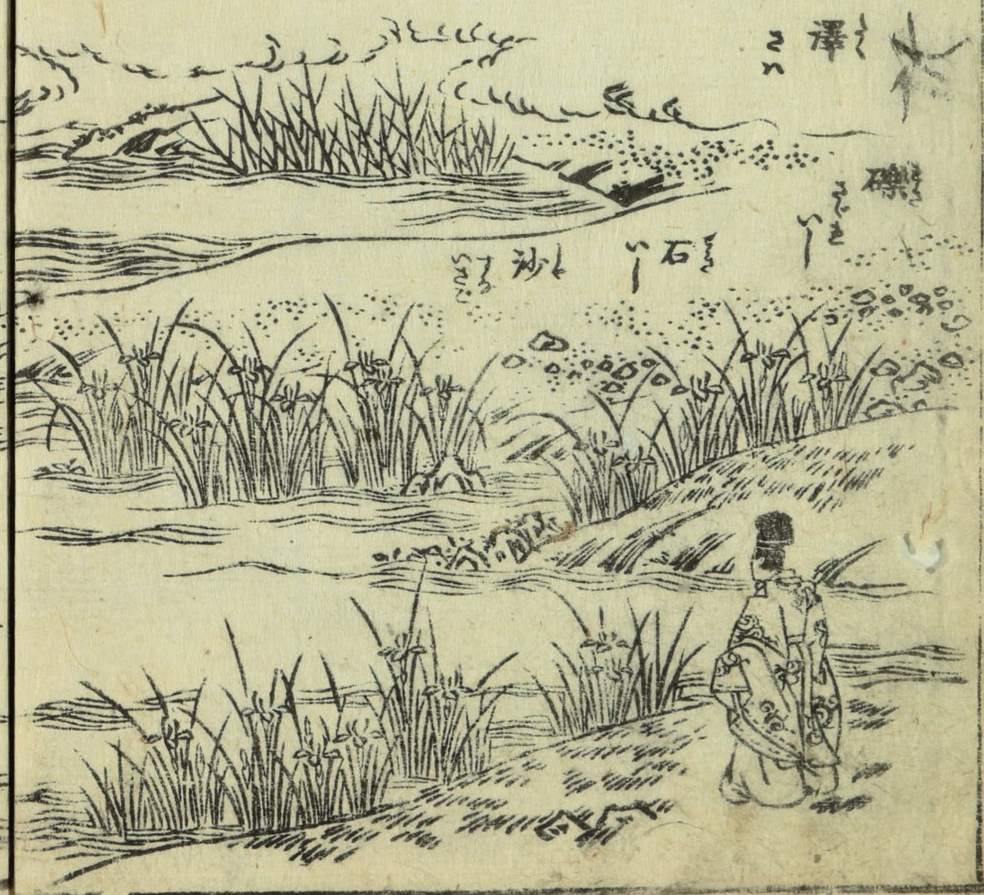
土を築て壇とし地を除て
場とし神をまつる所なり
農人の米穀をこゝに
と場といふ又ゆどといふ
市場賣場なり

○井は伯益なり
井の人なり鴆は毒鳥なり羽井
の中にすて人をの水をのめば
死をとゝく井のりふ桐を
鴆は鳳凰と懼鳳凰は梧
桐にをりのみをい鳳のゐ
んこゝに鴆は懼なるべし

○幹は井垣なり俗に
いけさゝつくこゝに井筒と書
韓のりとゝに竹に
鳳凰は竹の實をく

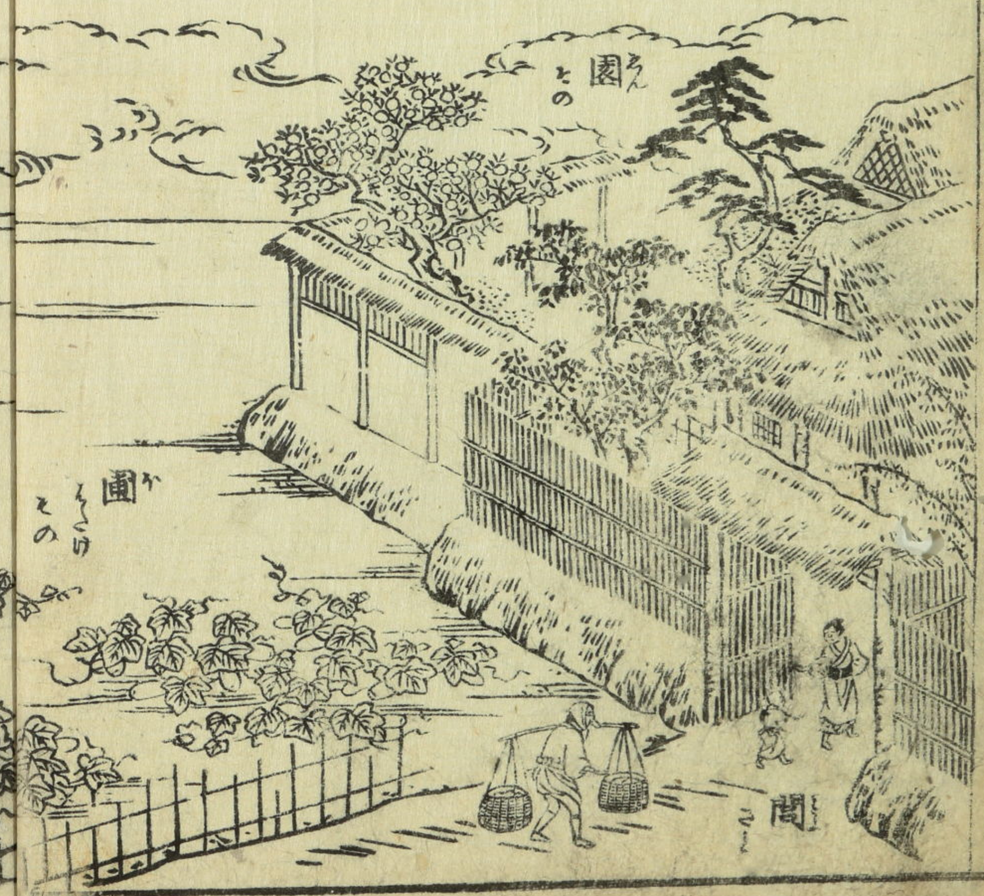


ふりのゆきび鶴とかそくがさ
ゆかり
○澤い水のあつまるところ
かり澤にい杜若河骨蓴さ
ひやかくく蛍とび人甚の夕暮
の景色もおもしろし
○石い山骨かり塊久ちくしく
石くろる石変して金銀銅鉄
と生ど星ちらく石くろる木
石に怪あり石より火と生ど
○礫い小石かりとでもいいく
人くびてくくもしかりとの石
礫にかりくく璃龍の蟠くと
ろかちくとこかり
○沙い細散の石かり別く沙とく
いかくすりかりと説文ふ水ゆふ
ちくさく水かくに沙かくく

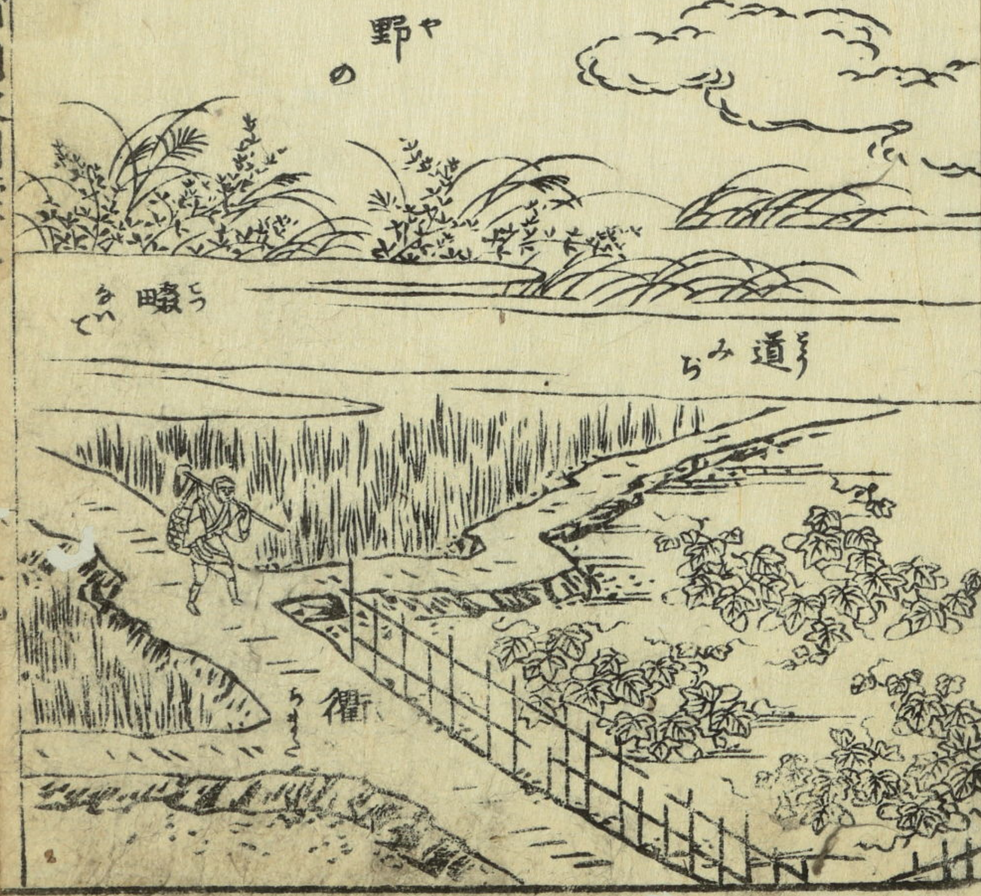


の義かり纖沙いはかごり
はさごいさとちかご同訓かり
○池い地とくろく水と溜ろ
とい沼も同じ四角なる
池と方池とい
○泉い源水かるとドとり湧
出かりく溫泉とい無いづると
沃泉とい完ちと出ると泥
泉とい病と治ちかく溫泉
といそゆかり地ちかく黃泉
といい
○塘い池塘かると池のかとり
ちかりかりと俗ちかいけと
い柳をいくかく柳塘
とい柳塘莫々暗啼鴉と
詩はもくくちり
○園い果とかるかりい鳥

けどものなやーを一形紙苑
といひ垣めるを園といふ
ものと訓を補園今俗
にうせどもーくいへ
○圃は菜どうゆるを形なりて
又果丸とうゆると圃といを
もいへ又ことけり我不
如老圃と孔子ものーを
論語に見へり
○閭里門なり今いへ在所
の惣門なり又家二十五軒
などの在所を閭といへ閭
巷といへ
○郊外と野といへり野は
ひろくして平なるを原と
高くして平なるを原と
ともいへり野原といへ



墅同ー野と書いわやまと
○道は道路なると途同ー
徑はこみちなり
用明天皇のとき五畿七道ふ
るる文武天皇のとき六十六
箇國とまる
○畷は田の間のみちなりあ
てあり俗ふ縄手と書縄を
引るるごとく直けとはあり
○衢は四達の道なりとく
十字街といちまとあり俗
に辻の字を書てつじと讀
衢衢洞達とあり
○城は黄帝にはじまる
るとこもいへ縣といへつ
けドもいへ内と城と
いひ外と郭といへ天守狭間



門　武者屯　擔　犬走
虎魚

○塹い城とめくる水タリヌ
坑　塹なる坑壕ヲヒ同
城郭のカリなり

○封疆い土地封ドて疆とか
きるがいい俗ことばなどと
いい洛陽ヒひ〜大閤秀吉公
のこの東西南北ニ封疆とさ
てがとうへのい今にカリ

○橋いひあ〜島王とい聖
人つくることとかり梁も
書カリ石いい〜ぐ〜なり地
ひらく〜カリ板橋ひ〜
石橋いい〜ぐ〜土橋ひちぐ〜
歩橋いふこと〜ぐ〜

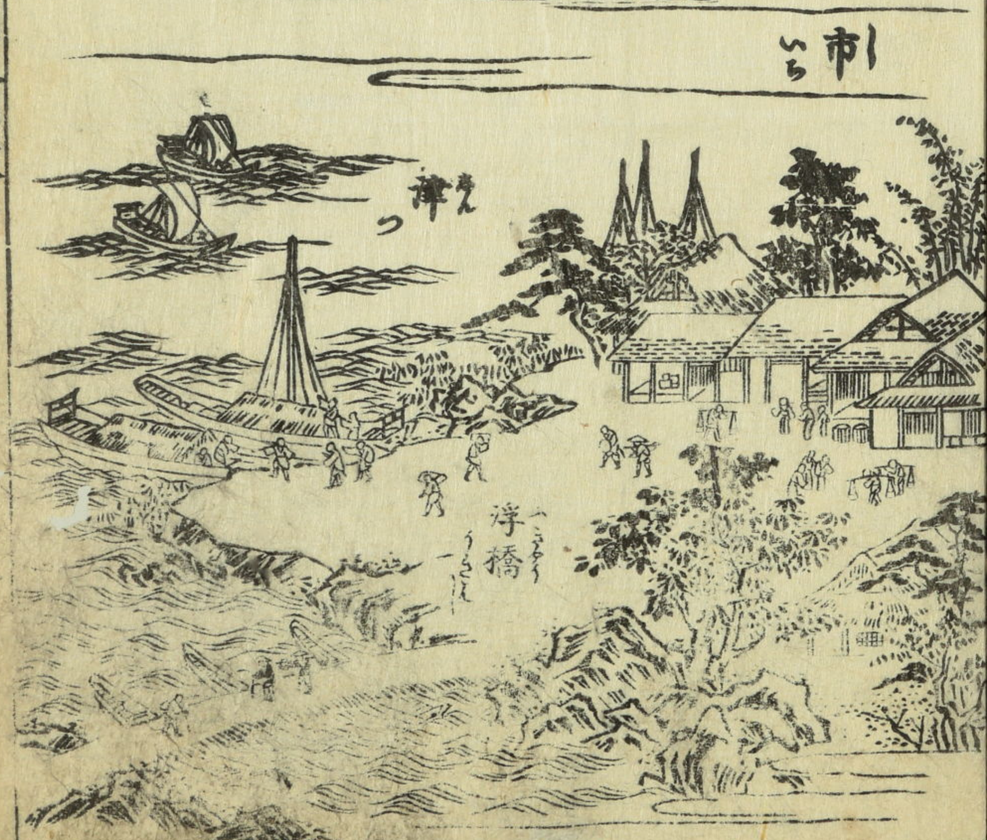
○市い神農ことかと

又祝融
賣買の所と市とい補今
俗ふ見世店とい魚のこと
呉服ぐるなぐ〜いぐ〜リ

○津い水の會ことろカリ舟
つさ又〜〜ぐ〜リ難波津
大津　今津　甲斐津など
いいさぐひカリ伯いこカリも

○浮橋いひと〜又浮梁と
も書べ〜又ふるぐ〜ぬ舟とつ
なぐカリぐ〜ぐ〜〜〜ふる
水ふくし〜て橋ぐのこと〜た西
カリぐ〜ふるぐ〜ぐ〜ふくるなり

○堤いふさぐ〜もちぐ〜ふた
ひ土とカリく〜水ぐ〜ぐ
ぐ〜ふ〜ひ〜ぐ〜ふりて堤と
い堤とカリく〜カリ塘堤同



柳堤は補堤なり柳を植るなり

○閘は水門なり俗ふるこ云

樋の口なり田に水を入るゝ

いりめけ入るゝ口をいふ

○堰は蛇籠と石とをもて水を

ふせくものなり又堰とも書也

水邊に田地又は屋敷のまわりの堰

をもいふ補俵に土砂を入れ水

ふせぐものなり

○水柵は竹木をもつてこしらへ

る水よけなるべしこれも

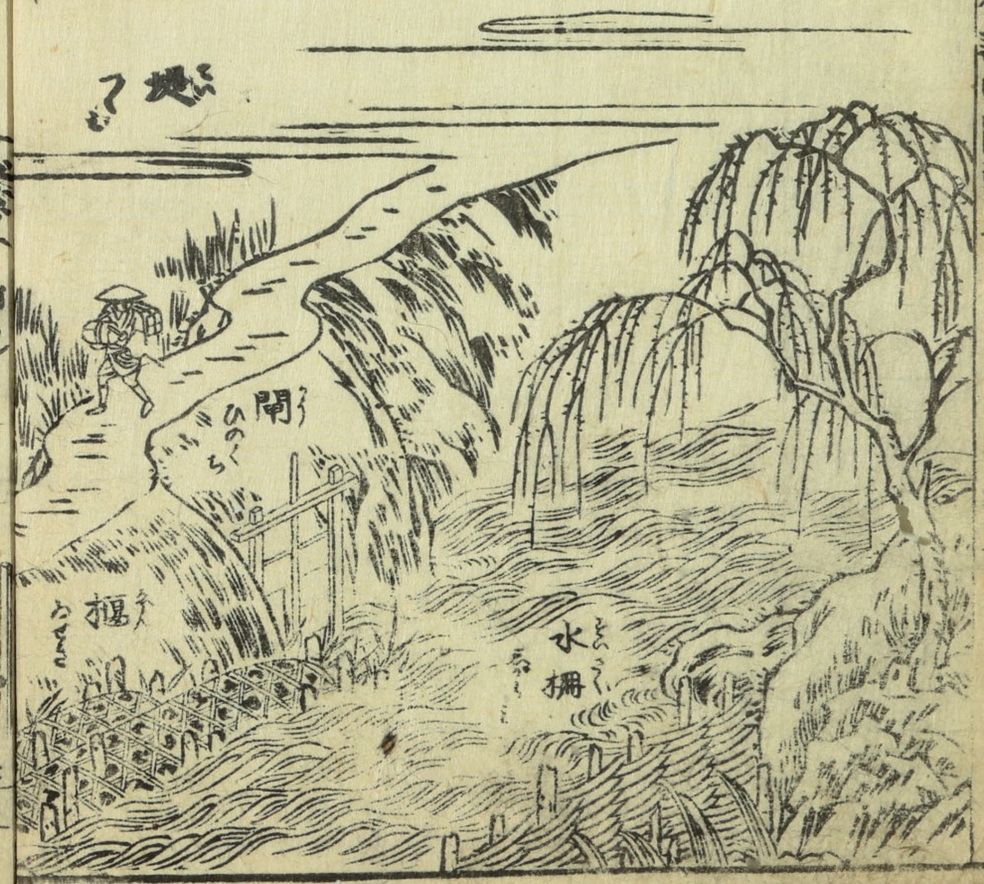
山川に用ひる也

なかれものゝ出るもの

とゝのゝ所なり

○關はゆき・のゝ・ふ・

きんどゝめ・ぐを所なり



関破の関 鈴鹿関 逢坂関

これ天下の三関なり今は

名のみ也 箱根の関なり

あるべし其外関所あり

峠は山坂をのぼりおりする

所なり

○森は木の多く生ずるなり

る所なり又は森蛍なり

又鷺の森などいふ所あり

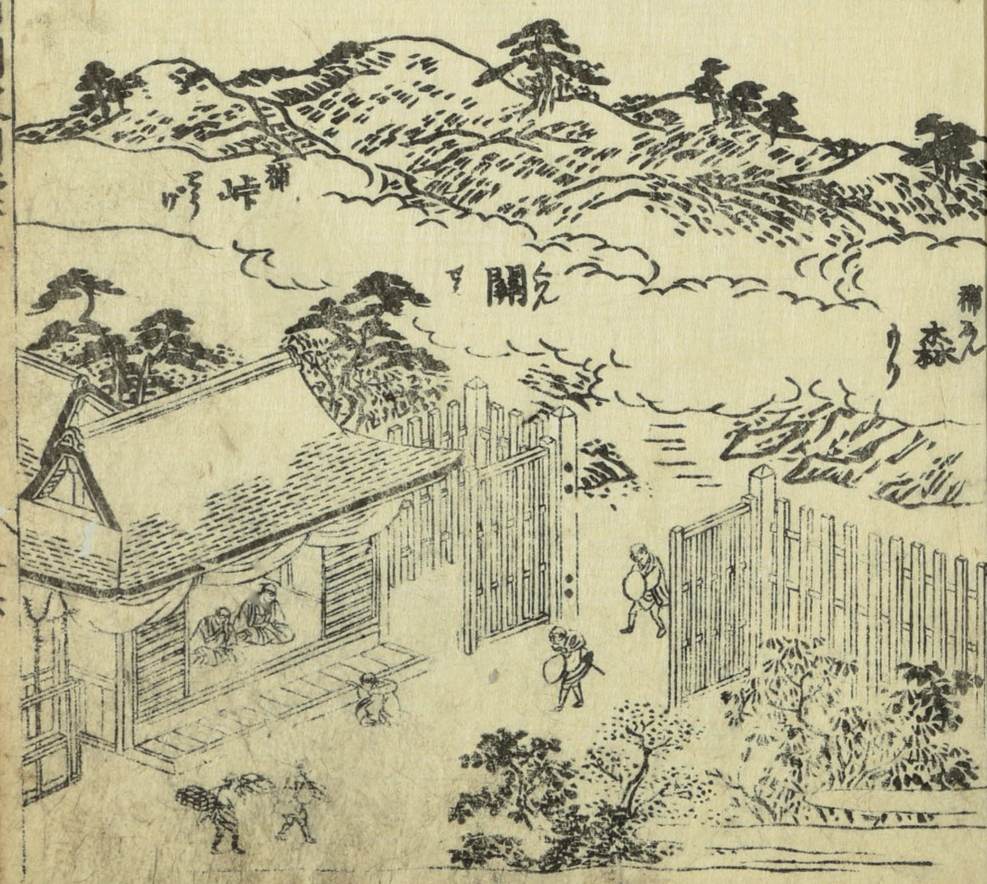
○牧は六畜をやしなふ所

なり郊外を牧といふ言は

畜ぶるなり牧をゝさき

園の守護と牧といふも民

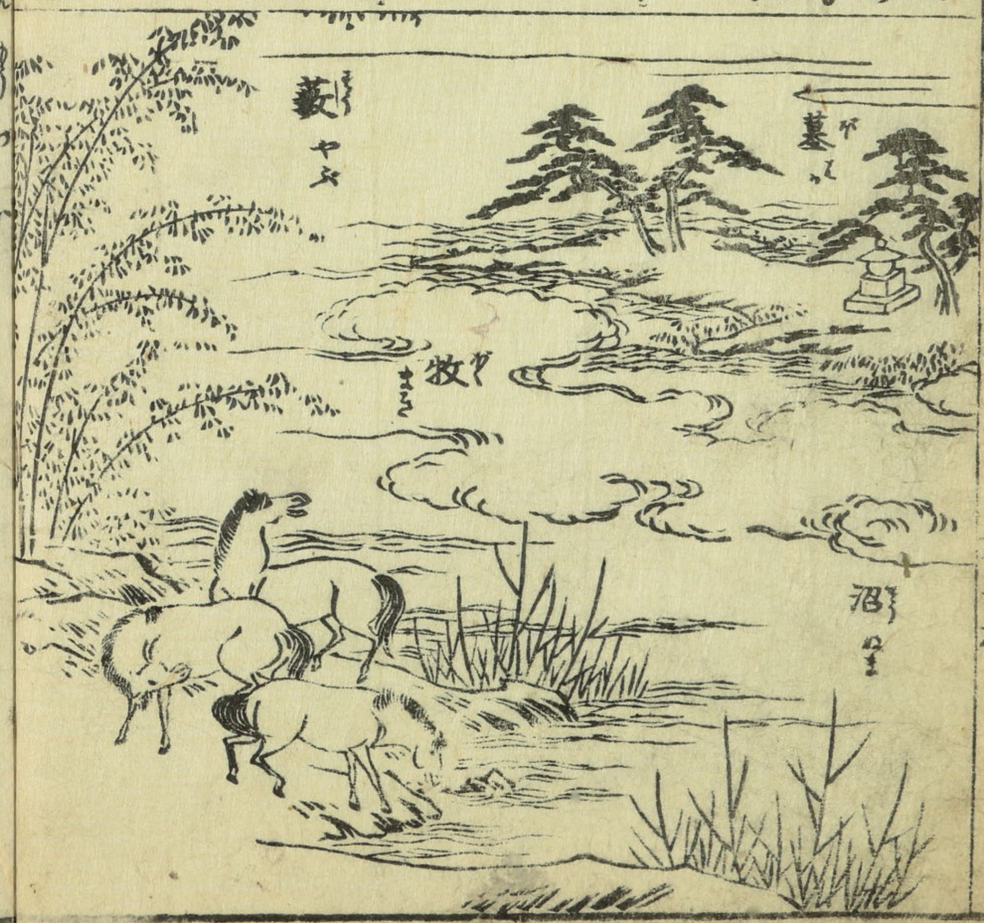
をやしなふの義なり



○墓い墓の字は意ゆそ
ちうちうい人事ありて子孫の
先祖と思墓をるり塚も
同し天子のをうは陵とも
墓同し墳つるるなを

圖沼い池の大なるりの小い
又水かく泥土ありりの多り池
澤沼い同じをびひなをと
城國伏見大沼ありて葦芦
など多くこと水鳥の住所也

圖籔い竹林ありり苦竹淡竹の
二種を用ひて其性をくをろく
籔とりして造作又い器財を用
ゆる事をぞなり



頭書増補訓蒙圖彙巻之三

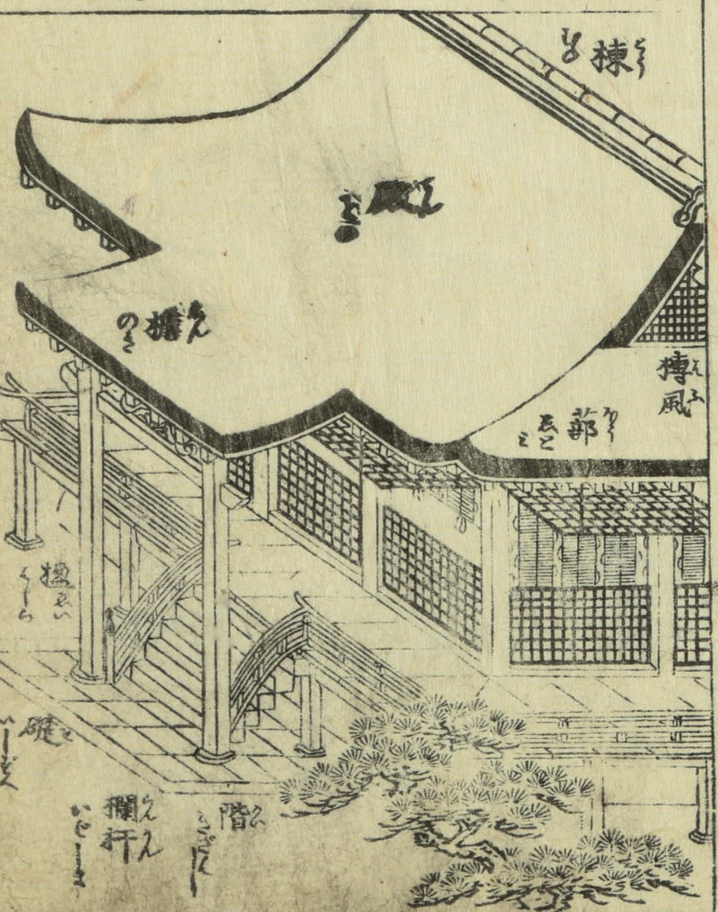
居處

此部小い宮殿門戸壁檐庭窓乃きぐひ
をべて家居宅所ふつそその文字のを

○殿い堂の高くして大なる
をのをり天子の居のを所小殿
をり殿乃天井に藻をえぐる
藻い水草なを天子をを
るりをを多り

○棟い屋極なを屋脊を甍
をりいらをり鴟尾いろを
蚩吻ふふぐ

○檐い簷宇同し遠檐燕
滴如琴筑と詩ふもにをり
又檐のわわめ檐の水水ふ
秋ふをりなを



○搨は殿門の左方にのぞみて左搨といふ柱同じく短柱なつたづらしらかなる

○欄杆は階除の木句欄なり干とも書なり干又檻と作るあぢしゆあり直欄横杆

○階は砌なり堂に昇る道也階級階除階欝ともいふ俗にきざはしといふ增ふつるはあやまりなり

○博風は風板博とも云

とさんさるの名なり◎色と懸魚といふ魚は水に住るものなれば火災をとさるの名

○鄙は屋の檐ふつりあげて元の式に入るなり

俗ふつるとも云ふ

廊下

門

庶

牆

磚

康

砌

華表

籬

宮殿

単にもやり戸は鄙の間より

なるもあり

○礎は柱の下れ石なり詩と

ふ韻字式ふひと礎と云

礫碩并に同じ

○庭は門屏の内と庭と云

又砌といふも庭なり

○門は両戸あるを門と云

楣闔振るを門ふなり

○廊は殿下の外屋なり

なりこれを廊下廻

廊なるべし本殿へのぼ

ひさしなり

○牆は墻垣墉並に同又門

屏と蕭墻といふ蕭ゲ言は

蕭なり君臣はあひまるる

乃紙の門扉にいろりて肅敬とくいろり

○扉木にて作るを扉と竹にて作るを扉と云門扉に柴扉竹扉なとゝ云

○磚いらかゝ瓦壁磚ともいふ甎博甎並同禅堂なとゝ有

○砌の階髓ありいしだゝ俗にいへいしろ通して庭石事なり

○宮の唐ゆゝしき至尊の居所を宮と云紀朝ゆゝしき神の居るを殿宮と云又社とも祠ともいふなり

○華表の神前にある鳥居なりとゝ云天の宮殿にあるを鳥居と云

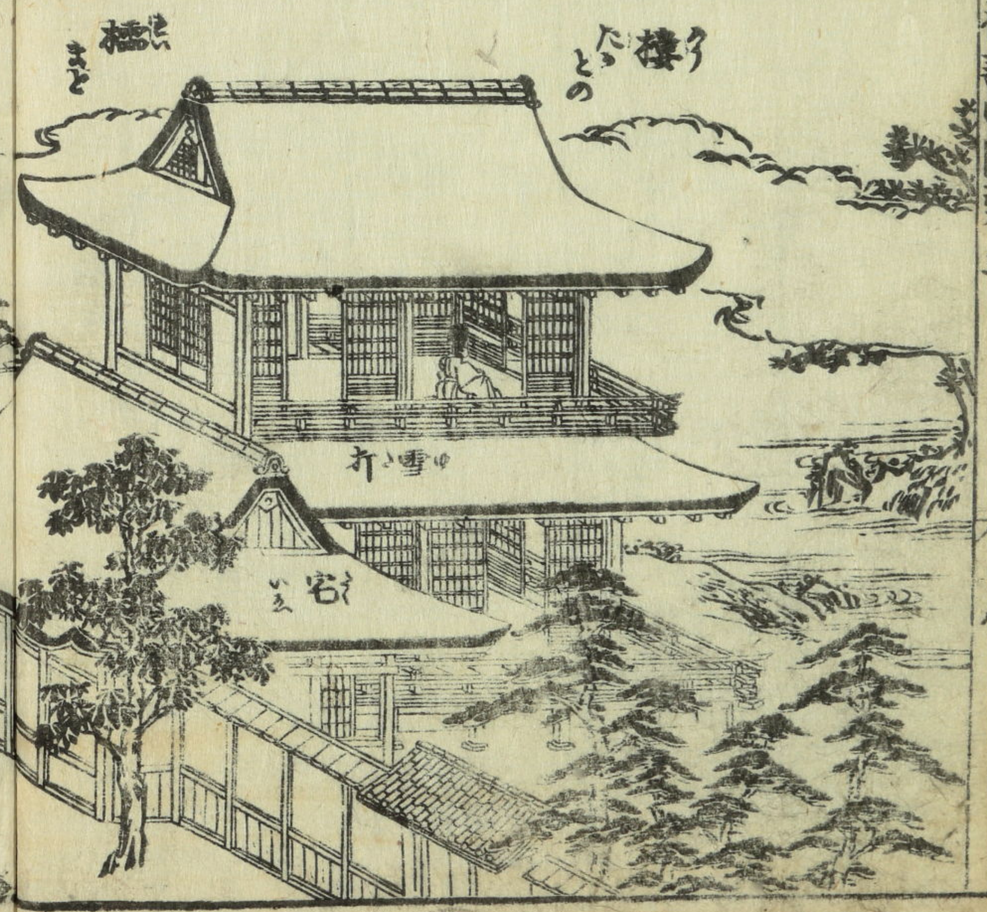
門なるを天の宮殿にあるを鳥居と云

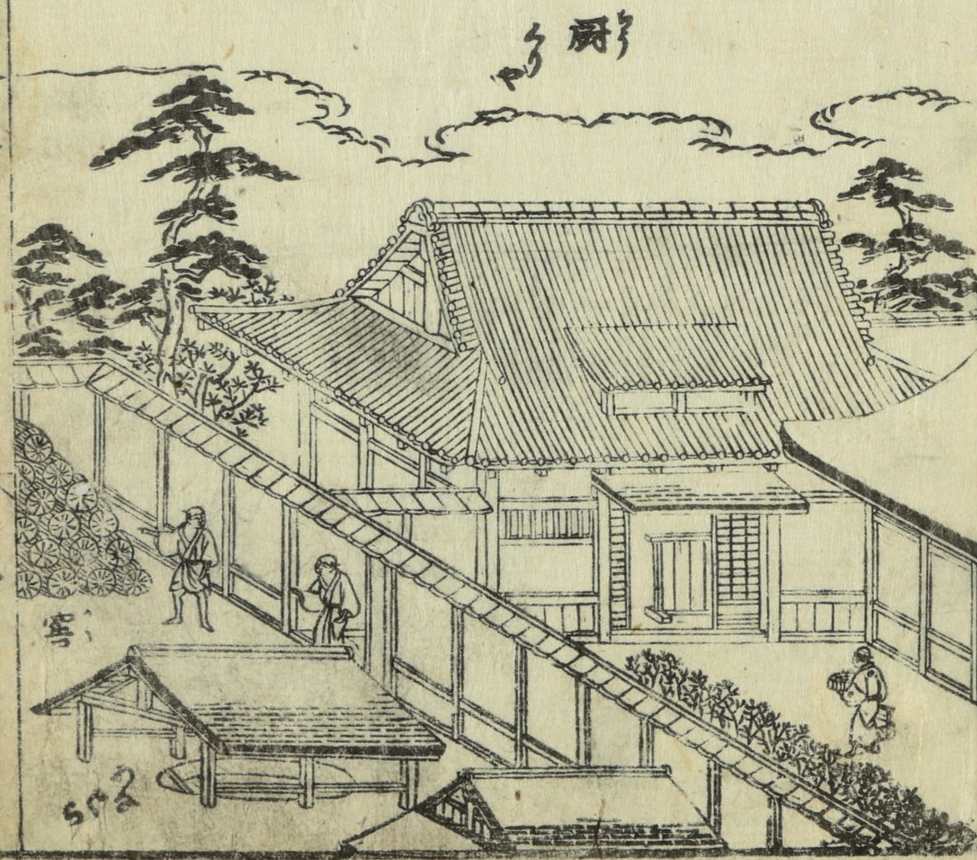
○瑞籬の神前社前のうゑ垣ともいふ不淨の人をとゝめる門へ入るゝなり

○樓の重屋なり高くのぼりて物見とするなり今俗にちんといふ

○檻の隔子なり檻ともいふ俗にひしゝといふ木の中ゝ檻ともいふ土の中ゝ土窓といふ

○雪打の佛殿樓閣又は三階なりとゝ云ふなり雨雪なとの打つるゝものなり俗にのきといふなり





○宅ハ擇ブベキモノ也擇ンデ善キヲ求ムルヤウニ人ノ託ルベキヲ擇ブベシ義モ亦舍家屋ヲモ同ジ繁宅

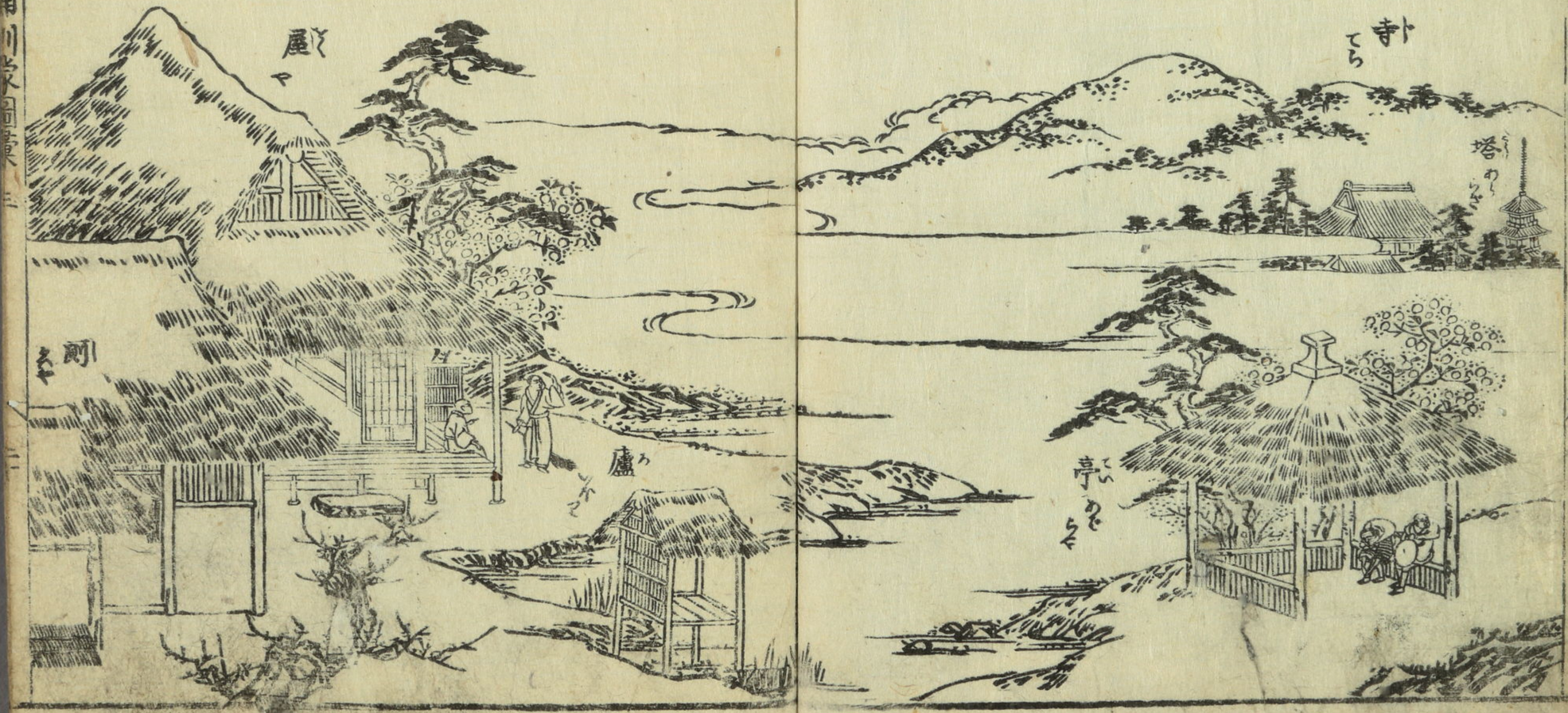
○厨ハ烹飪ヲ所ノ人ノ料理所ノ又庵厨ヲ略ス

○窖ハ地藏ノ穴ヲ窖ヲ方ノ穴窖ヲ穴ヲ

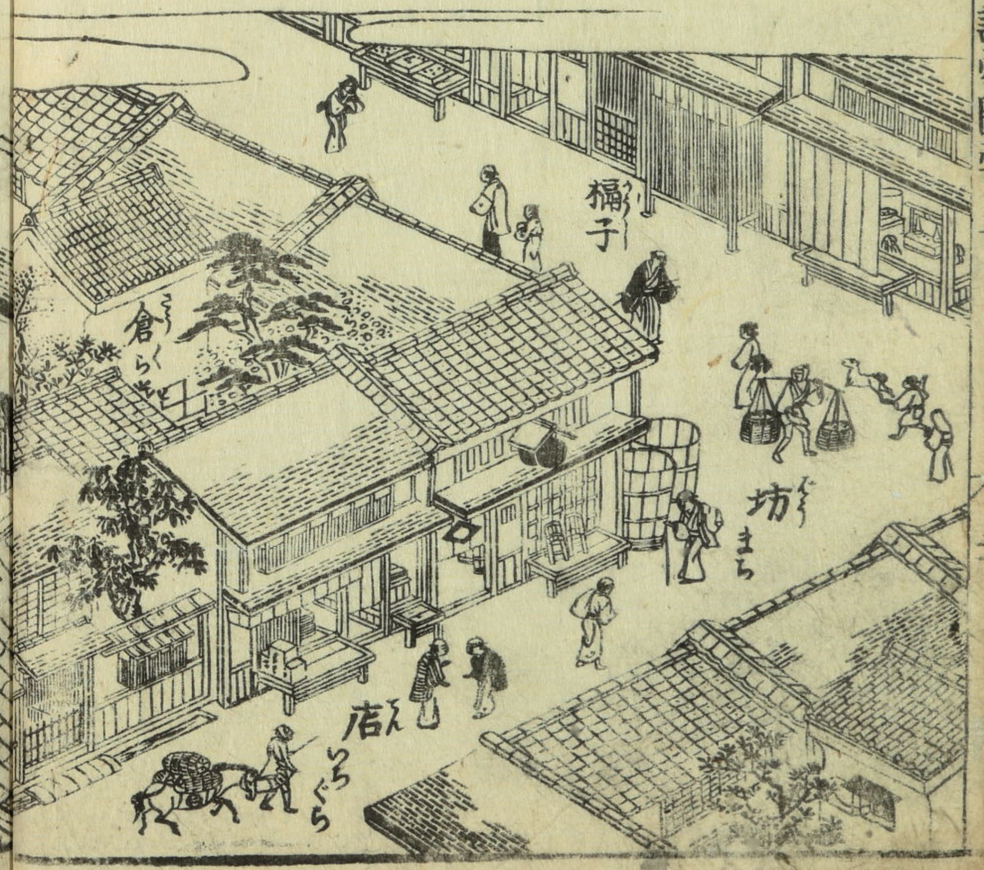
○寺ハ官人ノ居ル所ノ名ノ天竺ヨリ佛經ヲ白馬ニ負テ洛陽ニ來ル寺ヲ

○塔ハ高キ所ノ長安ニ慈恩寺ヲ塔ノ進士名ヲ塔婆 浮圖同ト

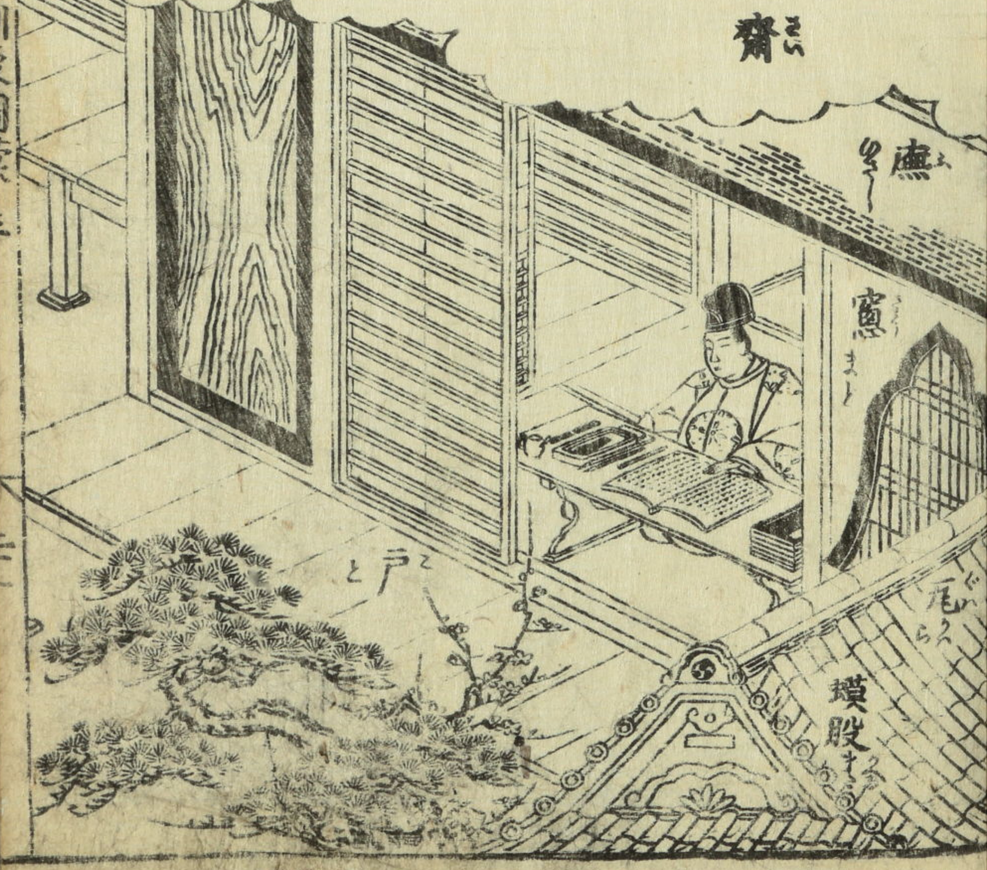
○宰ハ道路ノ舍所ノ亦行旅宿會ノ館ヲ



と書きり
○厠ハ圊なり溷なり俗ニ
ことを書隠とハ古ハ清とハ不
ハと清除とハ下くの名なり
中名ハ雑なる人なのうハに
厠をなり
○坊ハ邑里の名なり
ハ京二条通と銅駝坊
いうなり京二条通と銅駝坊
いうなり又ハ別屋と坊と
いうハ僧坊寺坊なり
○店ハ物をひさぐ所なり
なり茶店酒店などいうなり
店屋物かなどもいうハ肆廛
鋪同一心なり
○樻子ハ格子とも書なり組
入樻子 狐樻子 釣樻子 臺樻
子なり樻ハ禁裏又ハ寺社な



にあるハ狐樻なり
○倉ハ五穀を入るハ仓と
米を入るを廩といハ財宝を
いるを藏といハ書物を入るを
庫といハ上庫ハ府なり
府もなり
○齋ハ潔なり心を洗を齋を
いハ学文所といハ又燕居の室
なり学文をなるハ齋号ハ
付ることハ我学文所の号なり
なり
○廡ハ堂下の周廊なり大屋
の四邊の重檐なり
○窻ハ釋名に窻ハ聽なり
内なり外をうがひてなり
聽となるその義なり聰牖並
に同一 紗窻 紙窻



○戸は一枚ぐらの門と戸とを又門と戸といひ外と門とをつくもいつり民家多くしびらく多くは編戸とす

○尾は唐夏の昆吾といふ人つくり猫一名りめうこと魁といふ人おくるくは翹とも人魏の文帝尾とらく鴛鴦と多くと羨尾とも人とも数事ありとて鴛鴦尾とも人

○蟆股は摶風の下にあり蟆乃股ふ細くまたあり蟆は水中に住るものなれば火災をとどまるなり

○臥房は寢室ともいふ又閨房ともいふ天子の御寢所と也

○捷は限門本名り今つくれんの本名り廈門並ふ同

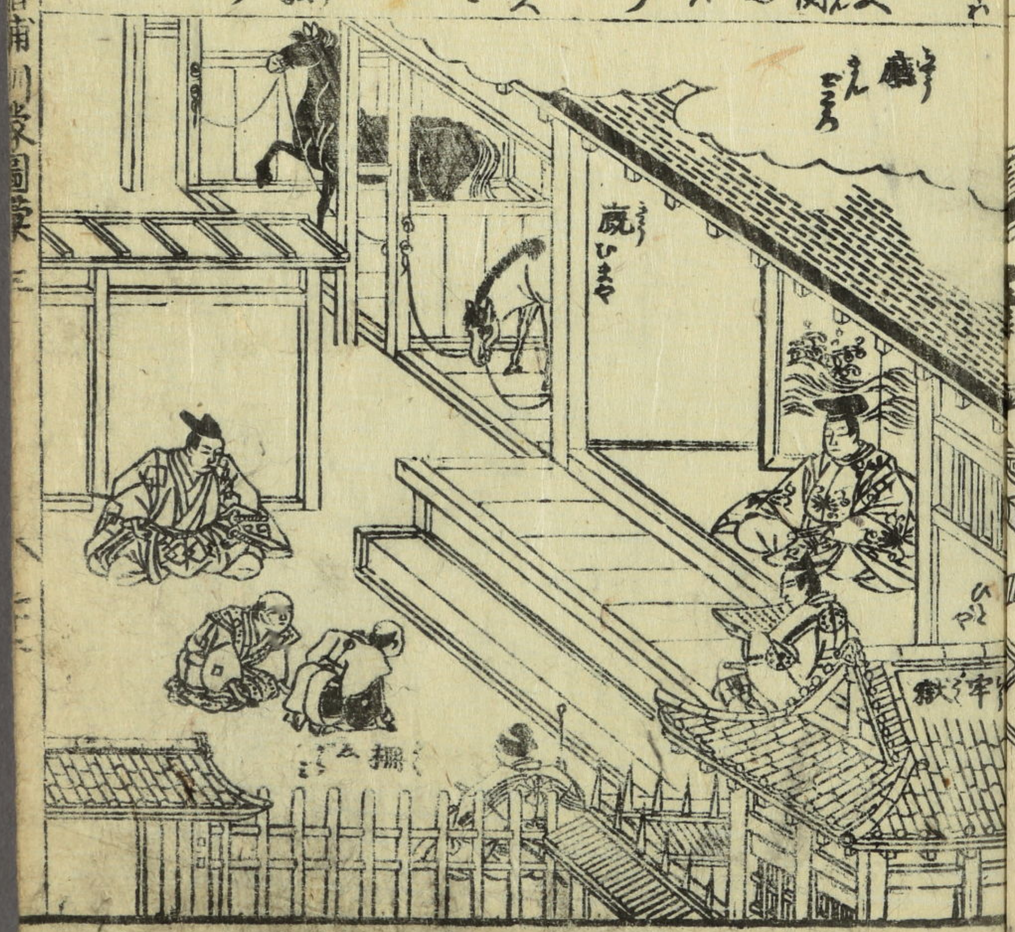
○扃は外より閉る関なり又門扉のうへの鍵鈕なり又関戸の本名りうへの本又は鎖

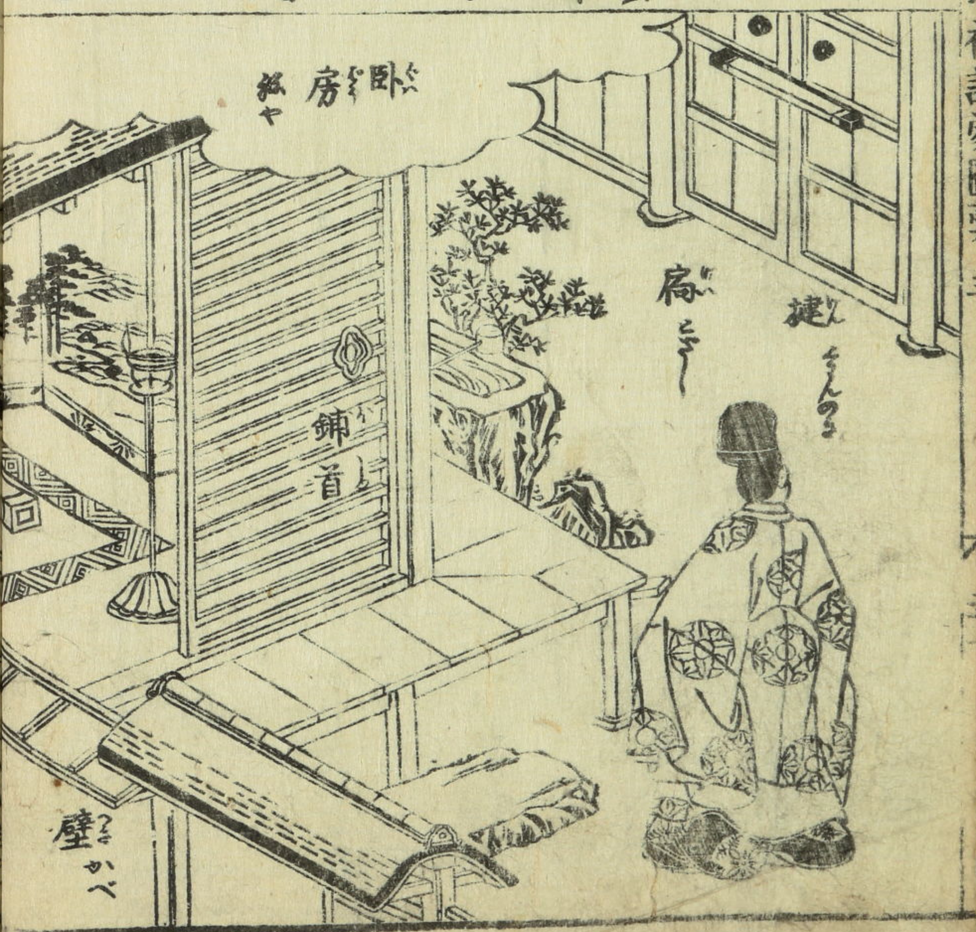
○鋪首は今按るふ門又は禍障ともいふ鋪のうへ鍵なり鈕ともいつかり

○壁は城のうへと墨といふ人と粉壁とも人畫壁板壁なとのうへ室の屏蔽なり

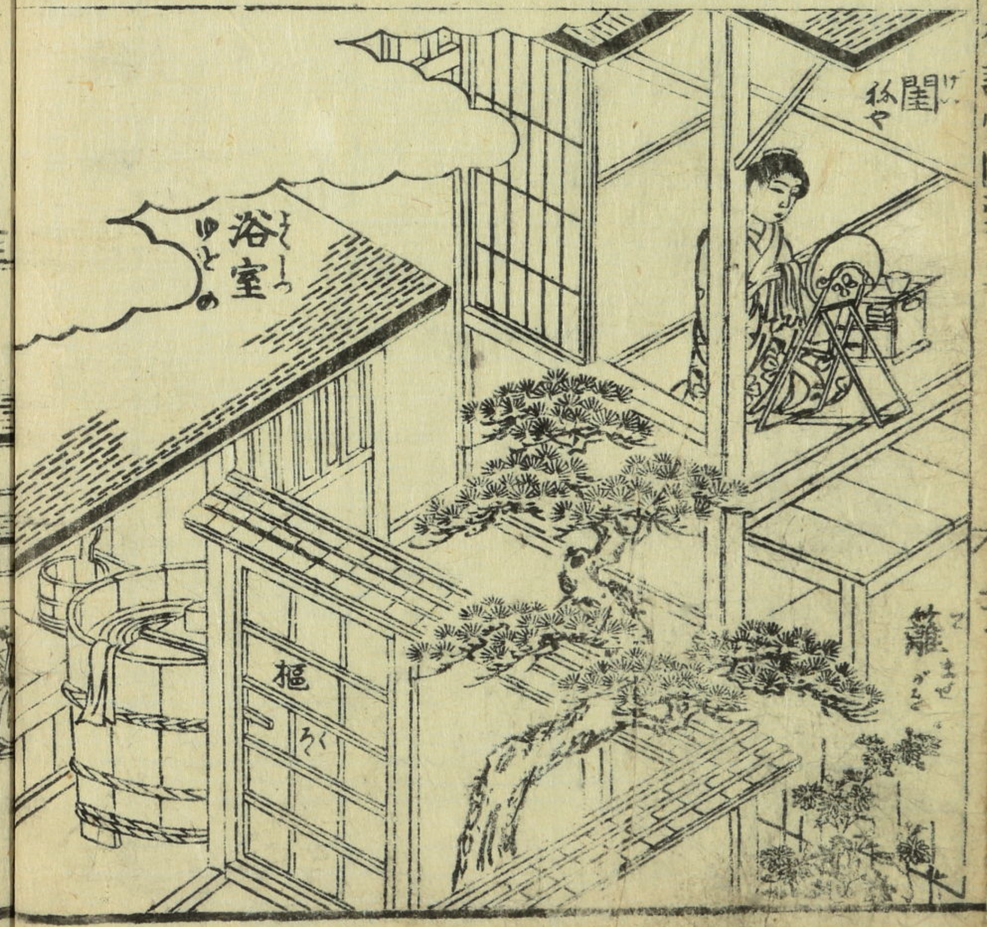
○廳は政とも人あり撿非違使のなり公事訴訟とも人さばくとも人なり

○廐は馬舎なり猿の異名と馬又とも人ともく廐と猿

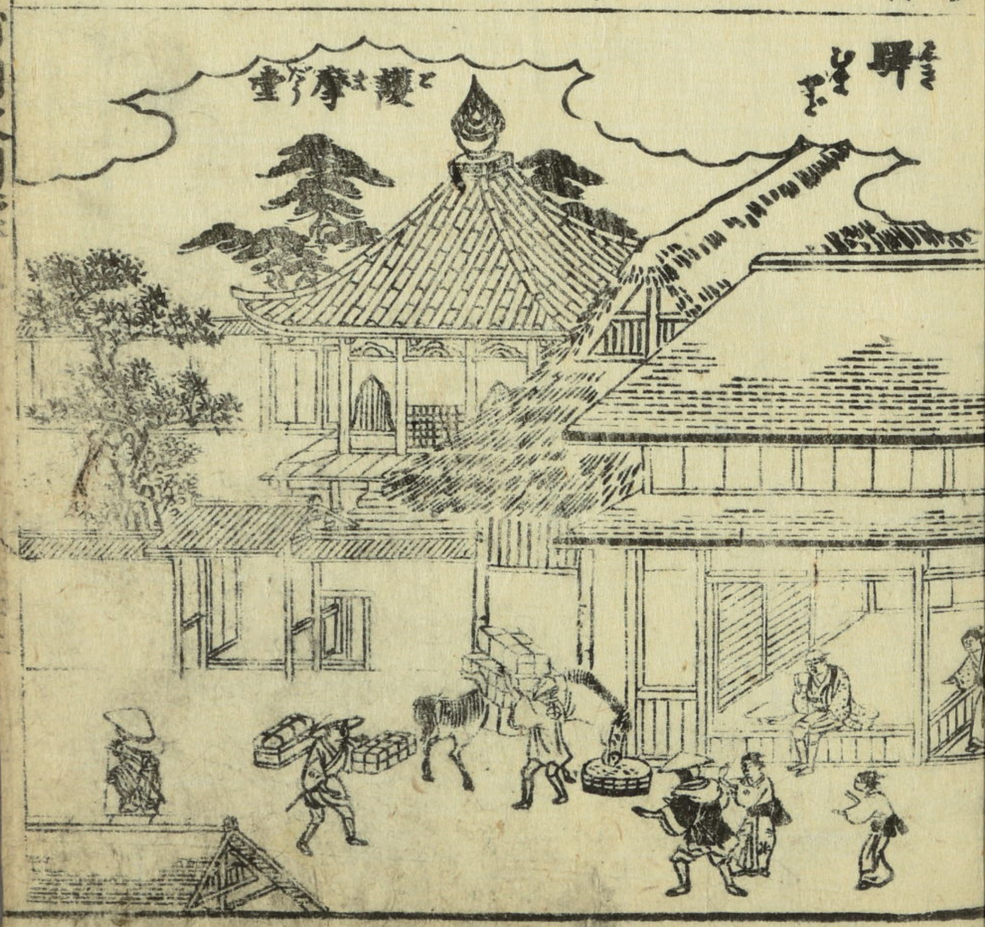




とろく祈禱ゝとろくゝ
硯の上ふ馬とつゆく太と猿
太ゝとつゝ
○牢獄ハ罪人と囚とろゝ
皇陶とゝ人つゝとゝとゝ
多り周の代ふハ囚囚とゝ今
籠ゝ書ハあやゝとゝ多り
○柵ハ木とあゝと是とゝる軍
陣にゝゝ人馬とふゝゝもの多り
算同ゝゝ俗ふ駒とゝゝも馬ふ
ゝゝゝゝ
○閨ハ婦人の孤ゝかゝと東坡
が月の夜故郷の妻とゝ月乃
詩ふも閨中唯獨看と他ゝり
○浴室ハ沐浴ゝゝ身とゝゝむ
ゝ多ゝ俗ふ湯殿とハ禪
寺にハ乱呂屋と浴室と顔と



○竹藪ハまゝゝもの作ゝくゝ
ゝゝゝゝ多り藩笆とふ間
陶淵明が詩ふ採菊東
籬下悠然對南山
○樞ハゝゝ多り言行ハ君子
の樞機なりとゝゝ北極を
天の樞多りゝゝを門樞戸
樞扉樞などゝ
○驛ハ道中のゝゝゝ馬つ
ぎゝハゝ驛館ゝゝふ驛舎
とも驛傳ゝゝ
○護摩堂ハ護摩ハ梵語
なりゝ焚焼と翻譯をゝう
まゝ護摩ゝゝゝハ重言
多り護摩と修ゝゝ護摩
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
○臺ハ四方にゝゝたりのゝ



臺といふ臺上に屋を架をを臺門といふ樓臺舞臺歌臺なり

○櫓やぐらなり城上の望樓かなり狹間ありけく敵の多少をうかゞひのぞき弓鉄炮をいるを所なり又戰棚ともいふなり

○棧敷い見物の棚なり棧敷いろいろあり〻〻べらぼ棧敷なり

○蹴鞠坪といふは鞠蹴場也四方のかゝりを四隅に松竹櫻楓をうゑるなり鞠いろこゝ蹴鞠をなすべしとなり

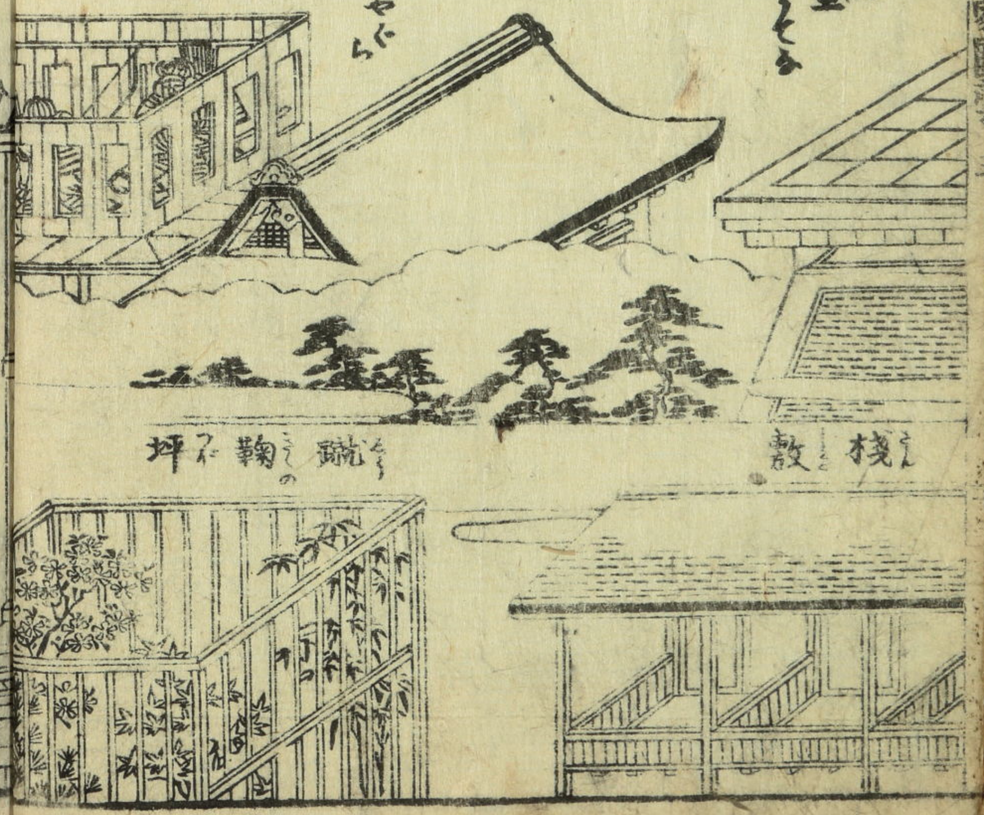
○輪藏へ切經を入置藏也轉ずれば一切經を轉讀する道理なり若し轉大士といふなり佛在世一切經を守護せしなり

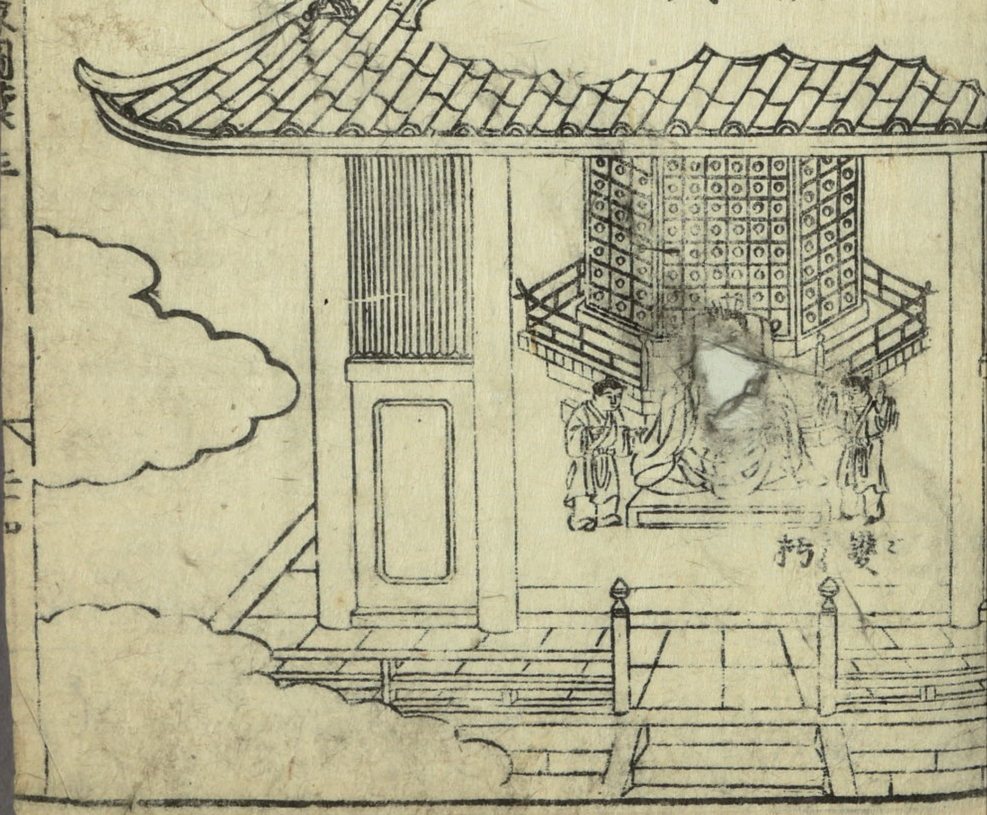
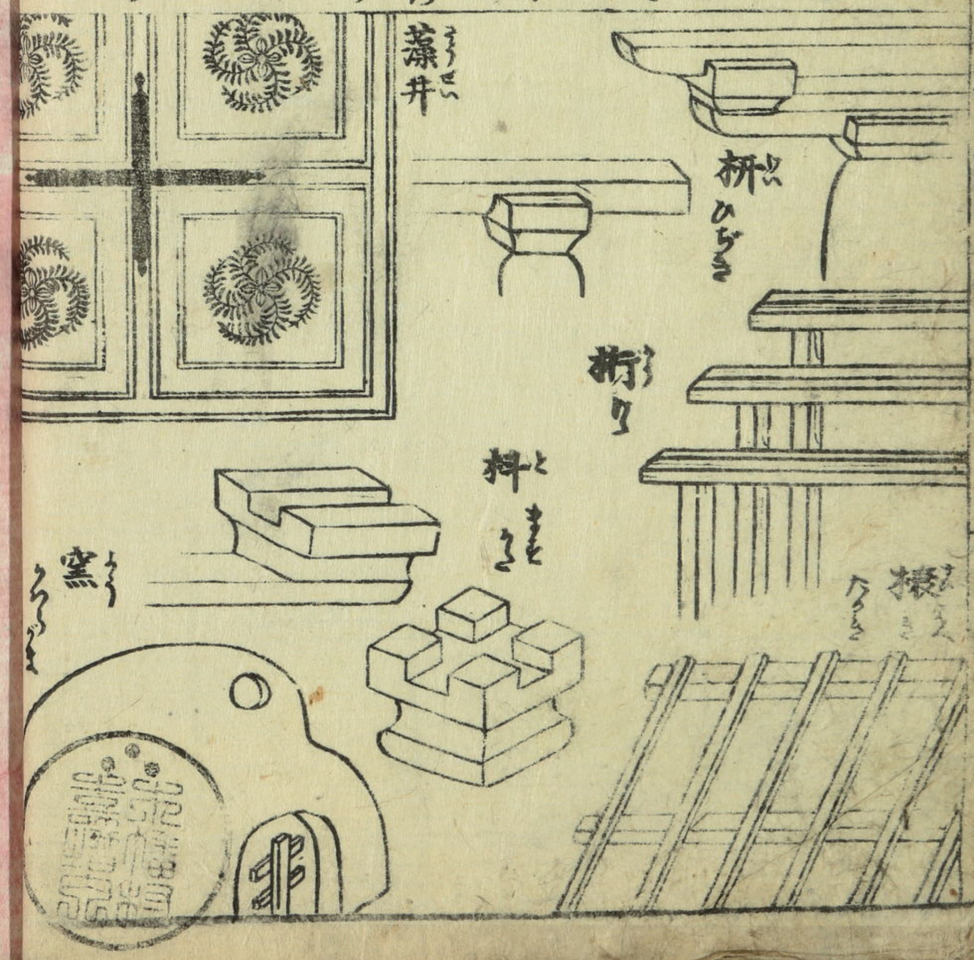
○護持へ今へ擬宝珠なり橋又へ高欄なり

○枅へ臂木と俗ふ書雲ともいふ付るなり雲臂木とも曲枅と拱とも欒ともいふ枅とのるなり

○枅へ柱の上の四角なる拱斗なり方枅拱枅拱枅ともいふ又へ櫨櫨ともいふ

○桁へ屋の横木なり又足也





頸の衣桁とも書もあり
又夜類とかゝる衣桁とも
翡翠鳴衣桁と杜子美が詩に
ありけり
○猿の縁かゝるもろこし秦乃
世ふの縁とも周の世には猿と
も齊の世ふてゝを猿とも
○藻井は天井なり藻とそく
にゝくゝ藻井とも藻とも
井とも云ふ文字とさゝろこゝろ
なり天井と書も此意なり
みゝ水の縁どる
○窯は瓦竈なりかゝるを窯同
なるを窯同なのゝ瓦ばかりにて
らゝ瓦入焼にくゝるとゝゞくなり
焼やくるもこれをゝびなり